

診療科等のクリニカルインディケーター(CI)について

・平成27年4月1日から、「第1外科」、「第2外科」を「肝胆膵外科」、「消化管・内分泌・小児科外科」、「心臓血管外科」、「呼吸器・乳腺外科」、「形成外科」に再編しました。「外科」のCIには「旧第1外科」、「旧第2外科」の実績が含まれます。

・平成28年4月1日から「消化器内科」を設置しました。平成28年度「消化器内科」のCIには「第1内科」「第2内科」の実績も含まれます。

・平成29年4月1日から「第1内科」、「第2内科」、「第3内科」、「膠原病・感染症内科」、「消化器内科」の5診療科体制を「循環器内科」、「腎臓内科」、「肝臓内科」、「血液内科」、「神経内科」、「呼吸器内科」、「内分泌・代謝・糖尿病内科」、「膠原病・感染症内科」、「消化器内科」の9診療科体制に変更しました。
平成28年度までの実績には、旧診療科の実績も含まれます。

2. 大学病院特有項目： 心血管カテーテル治療件数

▶ 項目の解説

心臓を栄養している血管(冠動脈)の狭窄や下肢動脈の狭窄をバルーンで拡張したりステントと呼ばれる金属製の網状の管を留置したりする治療です。

▶ 定義

年間の延治療患者数です。

コメント

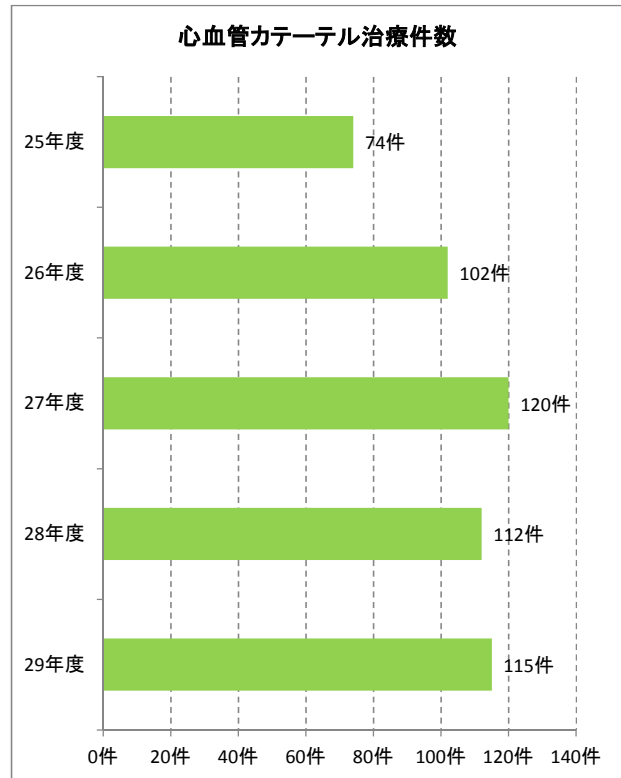
当科では様々な合併症を抱える虚血性心臓病患者を中心に、患者背景に十分配慮したカテーテル治療と、最適な術後薬物療法を提供できるよう努めています。

算式

延患者数

単位

件



心臓カテーテルアブレーション治療件数

▶ 項目の解説

カテーテルアブレーション(心筋焼灼術)治療は、局所麻酔下でカテーテルという直径2mm位の管を心臓内に挿入して、不整脈のもととなる異常な部分に高周波電流を流し焼灼を行う治療です。

▶ 定義

年間の延治療患者数です。

コメント

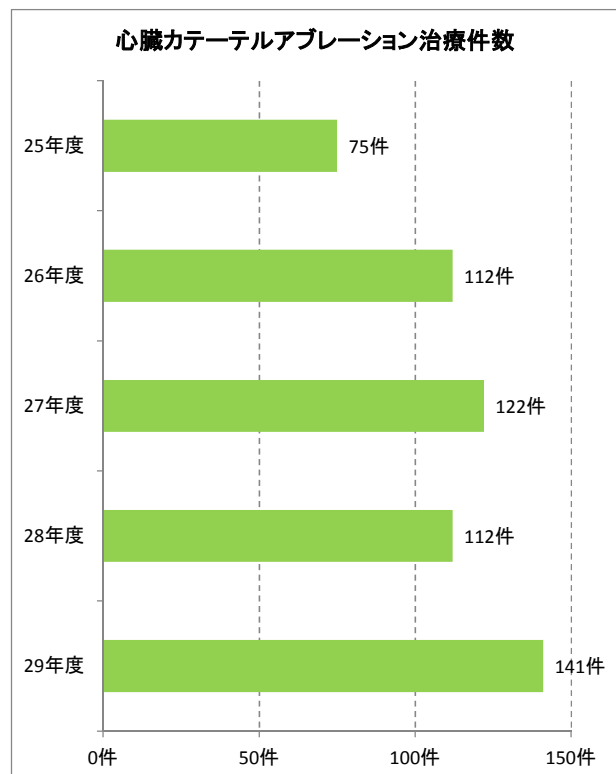
当科では県内の幅広い地域から多種にわたる不整脈疾患患者の紹介を受け、患者数は年々増加しております。最近では心房細動に対する治療も開始しております。

算式

延患者数

単位

件



ICDおよびCRT-D 植込み術

▶ 項目の解説

ICDは致死性の不整脈(心室頻拍、心室拍動)を治療する植込み型除細動器であり、CRT-Dは通常のペースメーカー機能に加え、心不全治療機能の心臓再同期療法(CRT)とICDの機能を搭載した植込み型の治療機器です。

▶ 定義

年間の延治療患者数です。

コメント

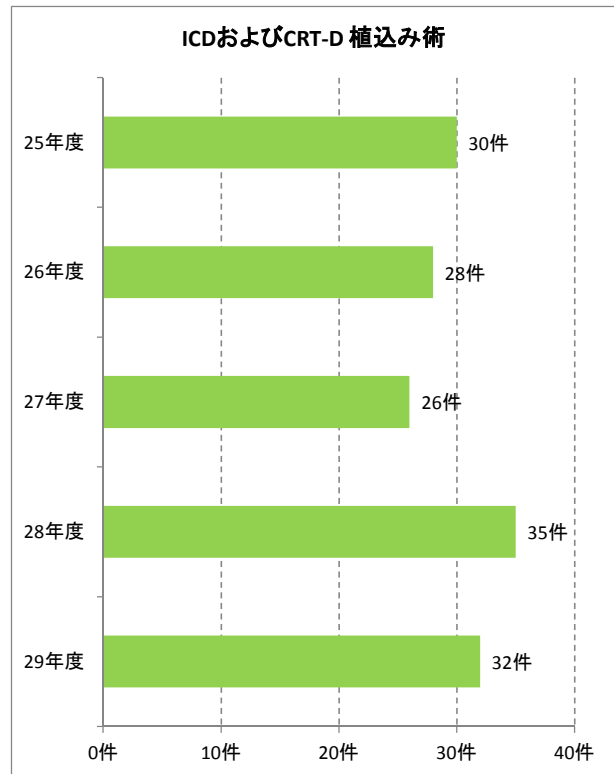
宮崎県内でも本治療を施行し得る施設は少ないのですが、ICD及びCRT-D植込み術の適応患者は年々増加傾向にあります。当科では、カテーテルアブレーション治療と同様に積極的に本治療に取り組んでいます。

算式

延患者数

単位

件



1. 一般的項目:

腎生検数

▶ 項目の解説

経皮的に腎臓の一部を生検針にて採取する検査です。

▶ 定義

1年度あたりの数です。

コメント

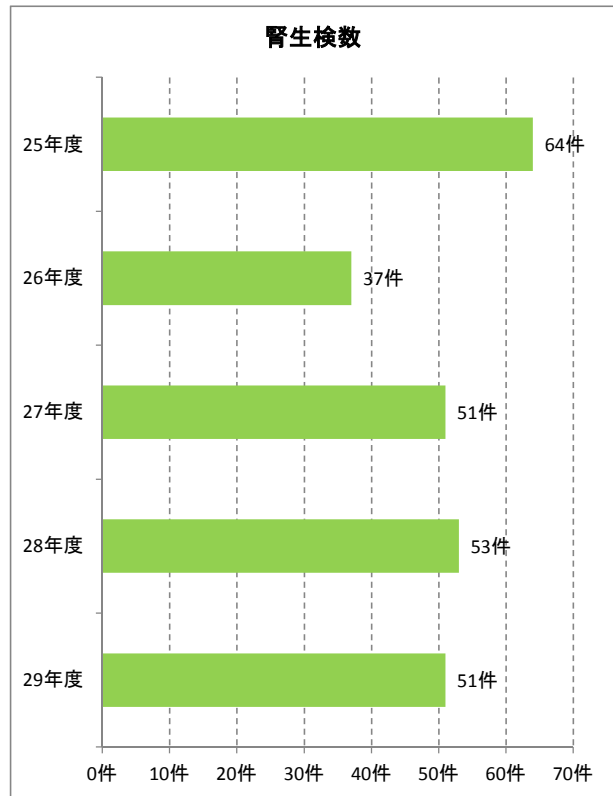
腎臓疾患をできるだけ正確に診断する手段です。
それに基づき、各患者に合った治療方法の選択が可能となります。

算式

延回数

単位

件



難治性腎疾患に対するアフェリシス療法

▶ 項目の解説

難治性の腎炎(ANCA関連血管炎を含む)・ネフローゼ症候群に対して、血中から人体に有害な物質を体外へ除去し、重篤な病態の改善を図る治療法です。

▶ 定義

1年度あたりの数です。

コメント

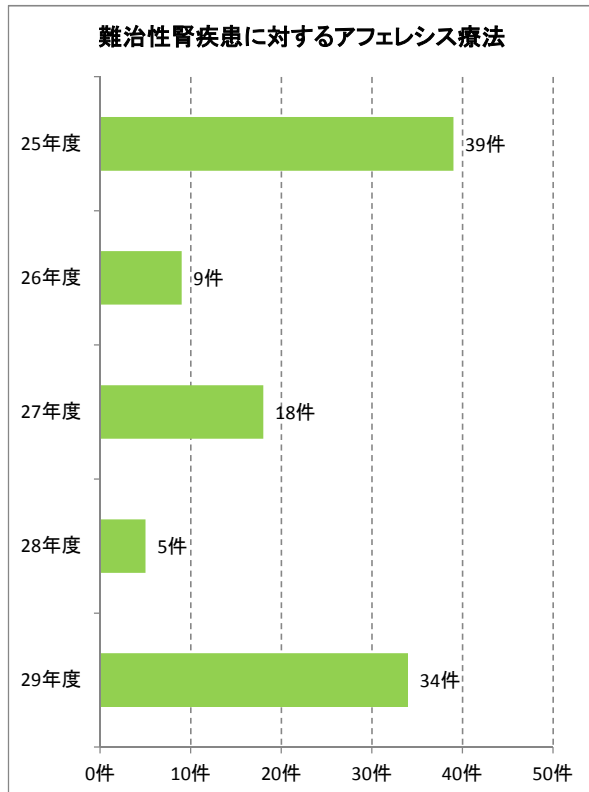
通常の内服治療のみでは改善の得られない難治性腎疾患において用いられる体外循環療法(血液を体外に出し、有害な物質を除いて体内に戻す)です。

算式

延患者数

単位

回



1. 一般的項目： 腹部超音波検査件数

▶ 項目の解説

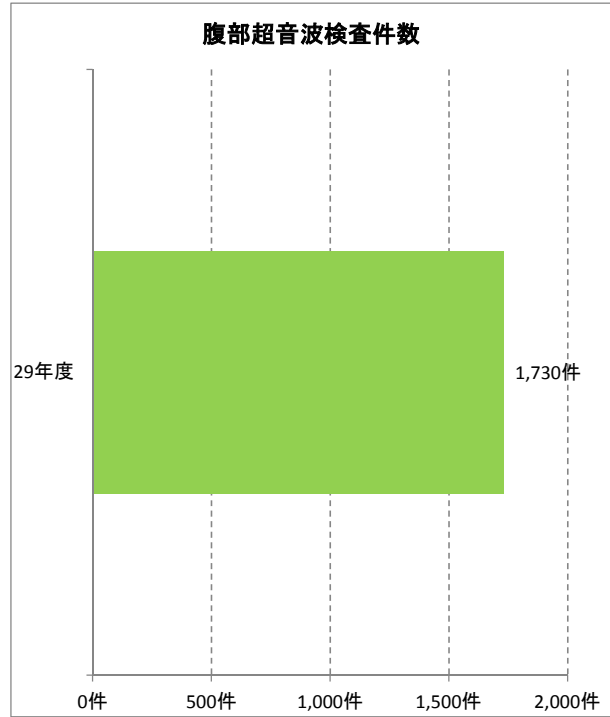
肝臓をはじめとする腹部臓器の状態把握目的に最初に行われることが多い画像診断です。腹部超音波検査は非侵襲性及び即時性に優れた検査です。一方で術者の技量により評価が左右される欠点も有します。しかし、当科で紹介されることが多い肝硬変や肝癌症例の状態把握に極めて有用です。この件数に肝疾患診療の体制や人員・設備などを含めた充実度が反映されるものと考えます。

▶ 定義

肝臓内科医師がオーダーした年間の腹部超音波検査件数です。

コメント

新設された診療科に関し、新たに設定されたCIであるため、今年度(H29年度)からの実績を評価していく。



算式

自科生理検査919件
+
がん診療部腹部超音波
検査数、内臓内科811
件

単位

件

2. 大学病院特有項目： 内視鏡的食道静脈瘤治療

▶ 項目の解説

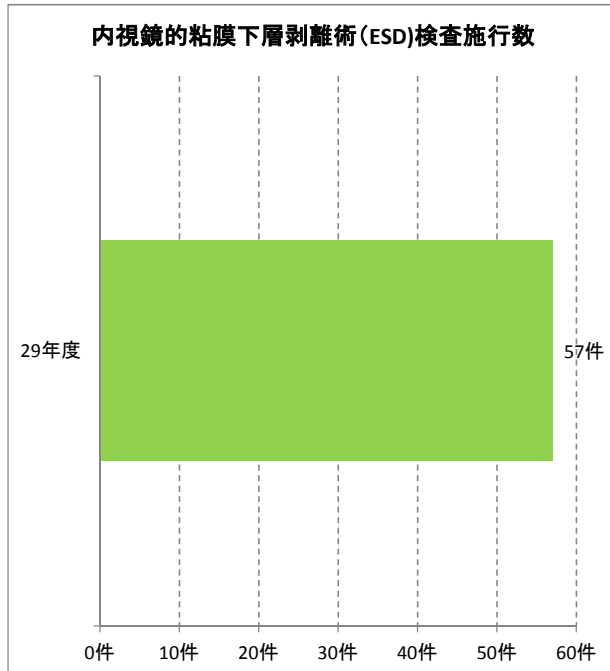
食道静脈瘤に対する内視鏡的治療は、肝硬変という重篤な基礎疾患を有する症例群に対し施行せざるを得ないことから全身状態管理に加え、高度な内視鏡技術が必要となります。この為、県内でも施行施設は限られています。この件数に専門性の高い肝疾患診療の体制や人員などを含めた充実度が反映されるものと考えます。

▶ 定義

年間の食道静脈瘤硬化療法と内視鏡的食道静脈瘤結紮術の合計数です。

コメント

新設された診療科に関し、新たに設定されたCIであるため、今年度(H29年度)からの実績を評価していく。



算式

内視鏡的硬化療法12件
+
内視鏡的結紮術45件

単位

件

1. 一般的項目： 造血器悪性腫瘍に対する化学療法の症例数

▶ 項目の解説

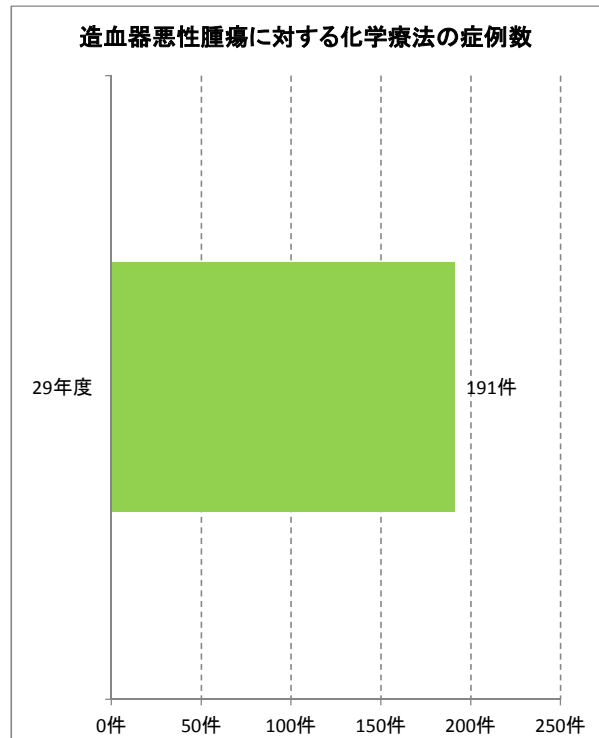
血液内科では白血病や悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器悪性腫瘍に対し、化学療法、分子標的療法、自己末梢血幹細胞移植、同種造血幹細胞移植を行っています。南九州地区ということもあり成人T細胞白血病/リンパ腫(ATL)も多く、その治療に取り組んでおります。

▶ 定義

年間の消化管内視鏡検査の総数です。

コメント

算式 造血器悪性腫瘍に対する化学療法の症例数 単位 件



2. 大学病院特有項目： 造血幹細胞移植症例数

▶ 項目の解説

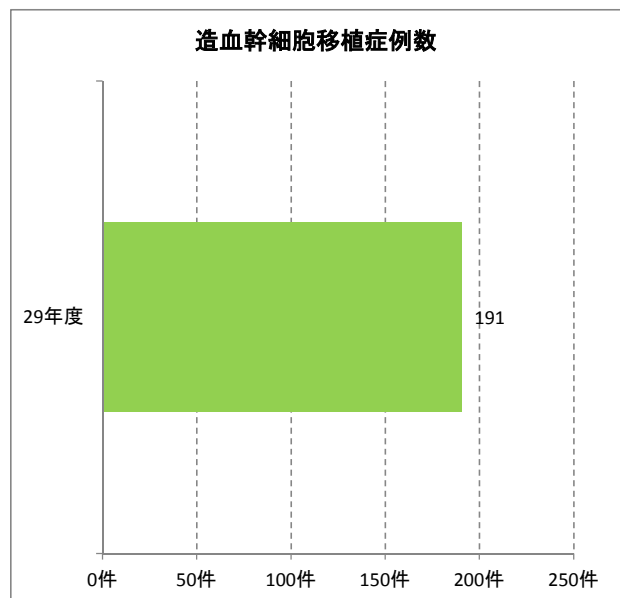
同種造血幹細胞移植については、特にさい帯血移植やパプロ移植についても取り組んでおります。

▶ 定義

年間の造血幹細胞移植症例数

コメント

算式 造血幹細胞移植症例数 単位 件



神経内科 中枢神経感染症治療

▶ 項目の解説

緊急を要する脳炎や髄膜炎などの中枢神経感染症の救急患者受け入れ実績で、早期診断・治療開始を行います。

▶ 定義

年間の延治療患者数です。

コメント

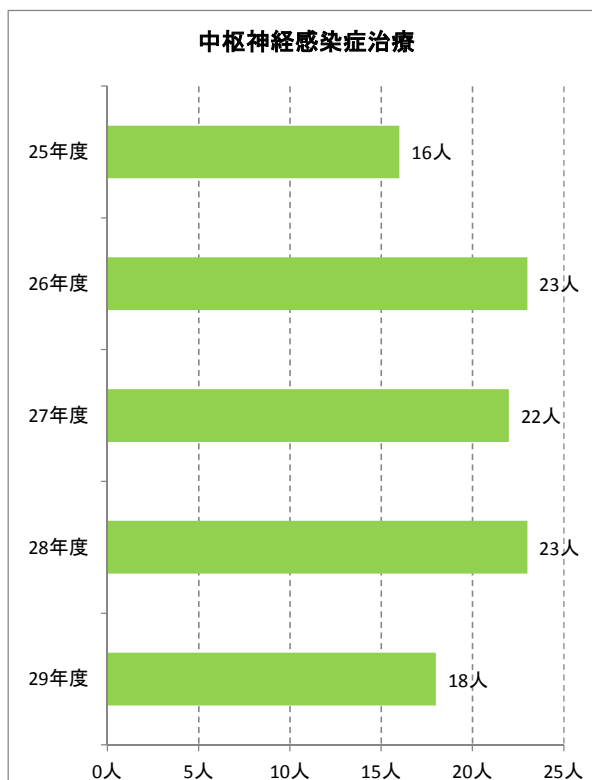
県内各地から神経内科救急患者を受け入れております。その中でも中枢神経感染症の割合は多く、早期診断・治療に努めております。

算式

件数

単位

件



筋疾患における病理学的診断

▶ 項目の解説

筋疾患は筋病理学的診断が必要な疾患が多くあるため、当科では筋生検を行って最終的な診断を行っております。

▶ 定義

年間の筋生検件数です。

コメント

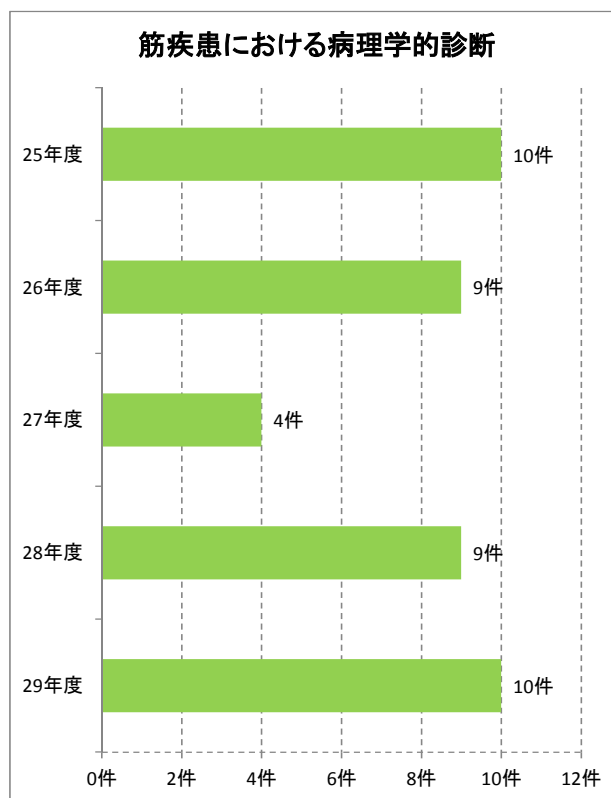
県内では筋生検の可能な施設に限られるため、多くの施設からの診断依頼を受けております。

算式

件数

単位

件



呼吸器内科

肺癌治療成績

▶ 項目の解説

呼吸器疾患の多くを占める肺がん患者の治療件数は、診療体制の充実度を評価します。

▶ 定義

年間の新規肺がん化学療法導入数です。

コメント

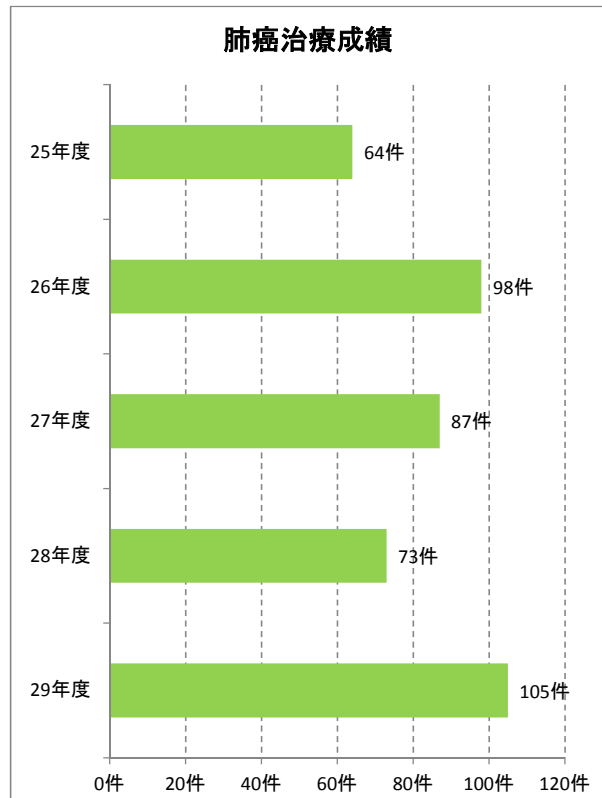
分子標的薬治療と免疫チェックポイント阻害剤導入の割合(合計40例)が増加。

算式

新規患者数

単位

件



内分泌・代謝・糖尿病内科 入院して精査加療を行った糖尿病症例

▶ 項目の解説

血糖コントロール不良、何らかの手術前の血糖コントロール、初めて指摘された糖尿病、合併症の進行した糖尿病症例などを入院の上で精査加療を行っている。

▶ 定義

上記のような入院加療の必要となった糖尿病症例数

コメント

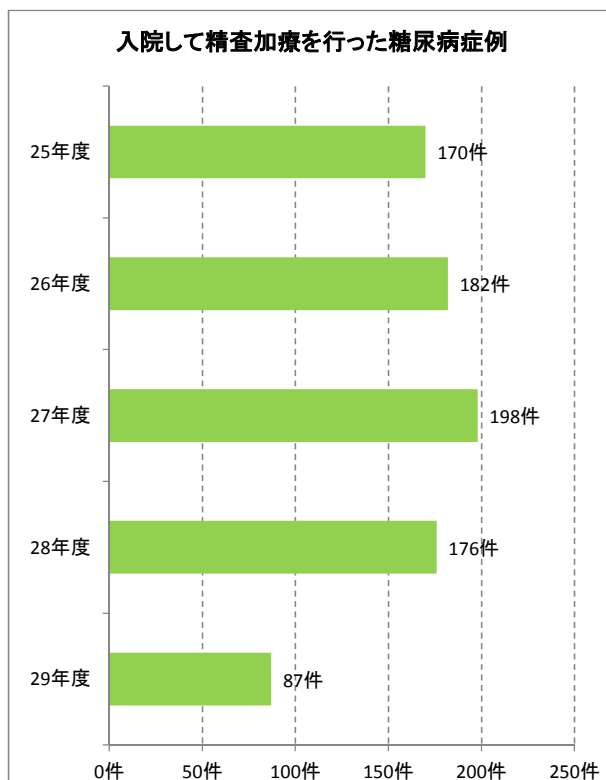
以前と比べると経口血糖降下薬などの抗糖尿病薬が格段に進化しているため、入院を要する症例は減ってはいるが、他科との連携で入院となる症例も多く、コンスタントに入院症例はある状態。

算式

1型糖尿病、2型糖尿病、糖尿病を病名に有する患者数を重複を避けて検索

単位

件



2. 大学病院特有項目:

下垂体疾患患者の内分泌学的評価

▶ 項目の解説

ホルモン基礎値、および内分泌負荷試験を施行し、専門医でなければ正確な評価が困難な下垂体疾患患者数を示します。当院脳神経外科と診療連携し、スムーズな術前・術後の内分泌学的管理を行っている。

▶ 定義

内分泌・代謝・糖尿病内科を受診した下垂体疾患を有する入院・外来患者数

コメント

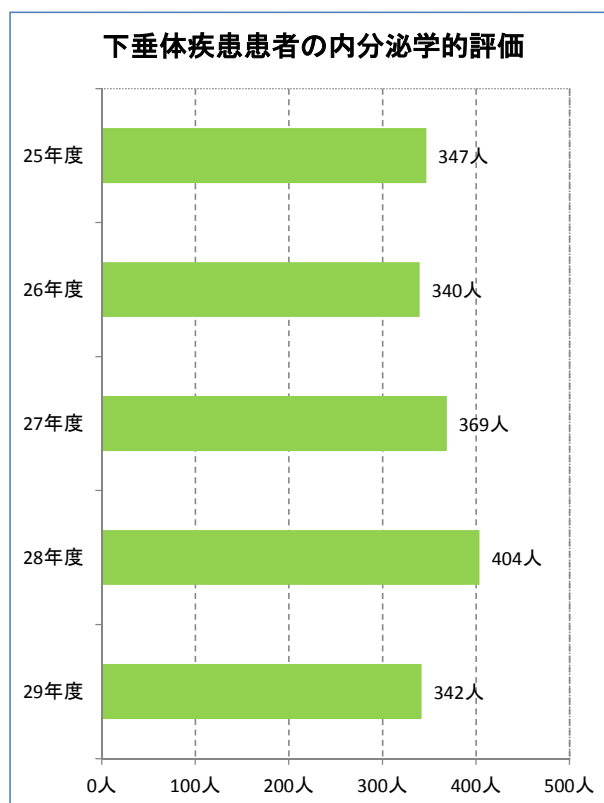
脳神経外科への下垂体疾患患者の増加に伴い、症例数は年々増加している。

算式

8つのキーワード(下垂体、尿崩症、成長ホルモン、プロラクチン、性腺機能、副腎皮質、クッシング、先端巨大症)を病名に有する患者数を重複を避けて検索

単位

人



1. 一般的項目： 年間の特定疾患の新規申請数

▶ 項目の解説

当科が担当する膠原病には、いわゆる特定疾患＝難治性疾患克服研究事業として厚生労働省が指定する疾患が多く含まれます。この疾患の当科における新規発症数を把握することができます。

▶ 定義

当科で該当疾患の臨床調査個人票を新規発行した件数です。

コメント

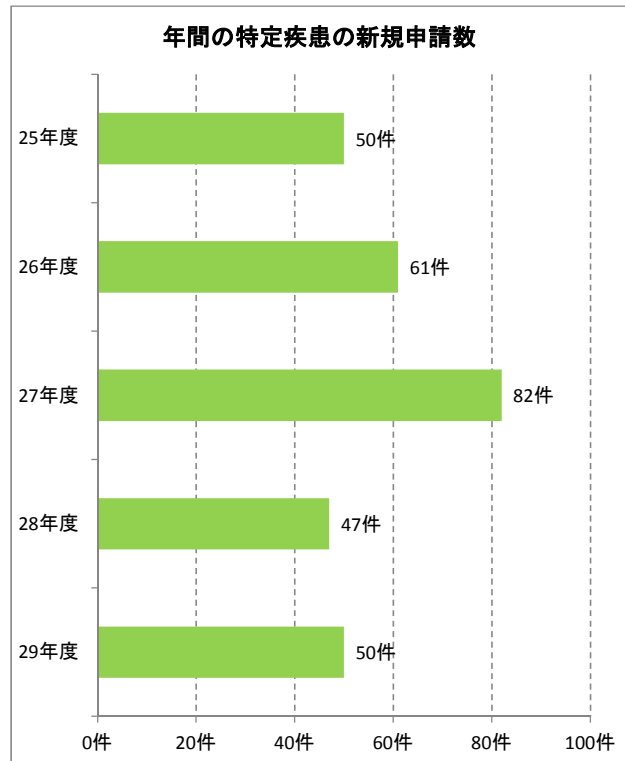
年度により変動はありますがある一定数以上を保っています。稀少疾患ながら何らかの疾患の鑑別疾患には常に挙げるべき存在であることがわかります。

算式

件数

単位

件



2. 大学病院特有項目： 不明熱患者における、診療の始まりから診断確定までの日数

▶ 項目の解説

当科では原因不明の発熱の原因検索を請け負うことが多く、診断までにかかる日数から、診断能力と診断機器の性能の向上の程度を推し量ることができます。

▶ 定義

入院日より診断確定までの日数です。診断確定日とは、治療を開始した日か、原因不明のまま退院となった日のこととする。

コメント

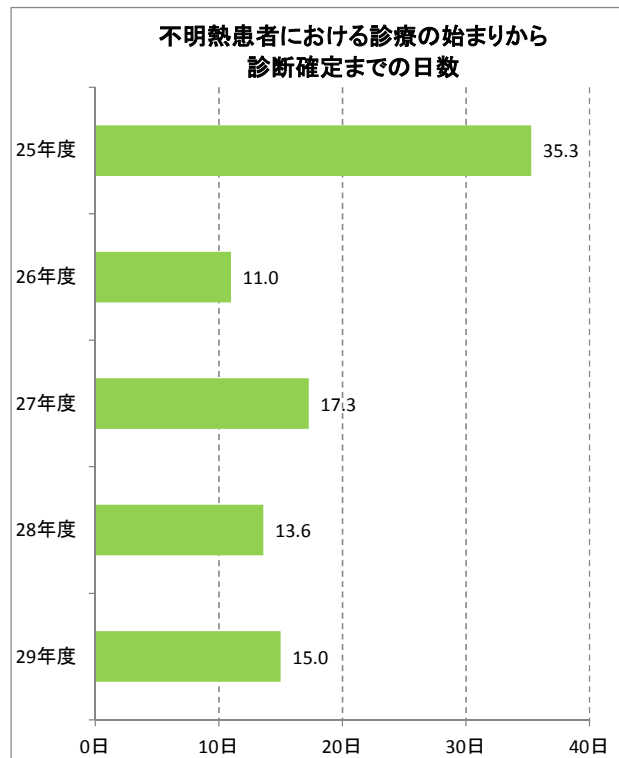
日数は年度により変動があります。当該疾患毎の鑑別疾患の多彩さ、各種疾患の診断基準の見直し、新しい疾患概念の出現など、様々な要因が診断確定までの道程に反映されると考えます。

算式

日数

単位

日



1. 一般的項目： 上下部消化管内視鏡検査件数

▶ 項目の解説

食道・胃・十二指腸および大腸に対する内視鏡検査です。

▶ 定義

年間の検査件数です。

コメント

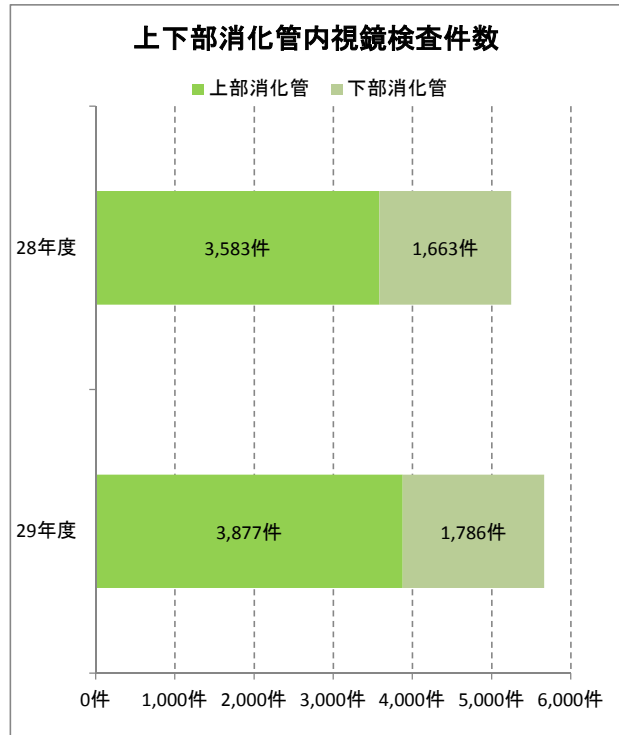
悪性疾患から炎症性疾患まで幅広い内視鏡診療を行っております。悪性腫瘍に対しては狭帯域光観察(Narrow Band Imaging:NBI)、拡大内視鏡、超音波内視鏡も行っております。

算式

延件数

単位

件



小腸内視鏡検査件数

▶ 項目の解説

ダブルバルーン小腸内視鏡(DEB)とカプセル内視鏡(CE)を用いた小腸疾患の内視鏡検査です。これまでは外科手術が必要であった小腸出血や小腸腫瘍などの内視鏡的診断と治療が可能となり、患者さんの負担軽減につながります。

▶ 定義

年間の検査件数です。

コメント

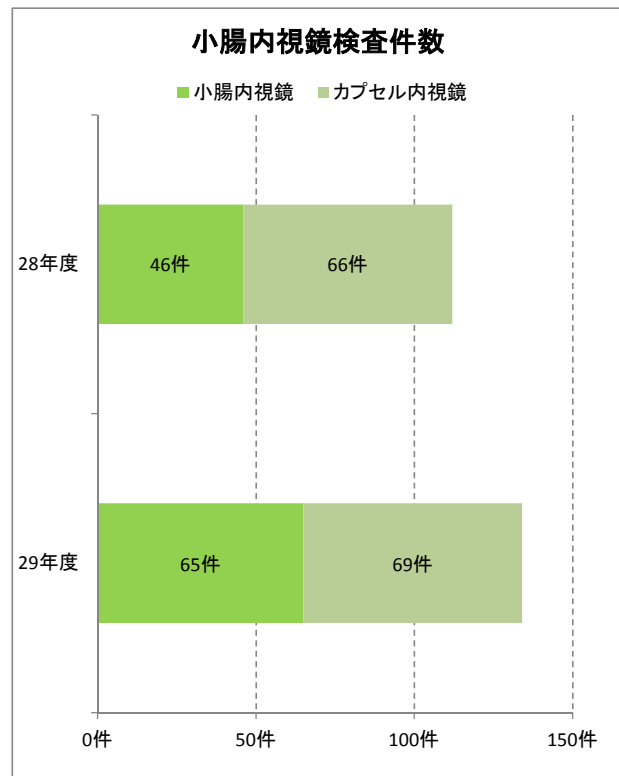
ダブルバルーン小腸内視鏡は平成17年、CEは平成20年より当科でも導入し、これまでは困難であった小腸疾患の内視鏡診断と治療が可能となりました。

算式

延件数

単位

件



2. 大学病院特有項目：

内視鏡的止血術

▶ 項目の解説

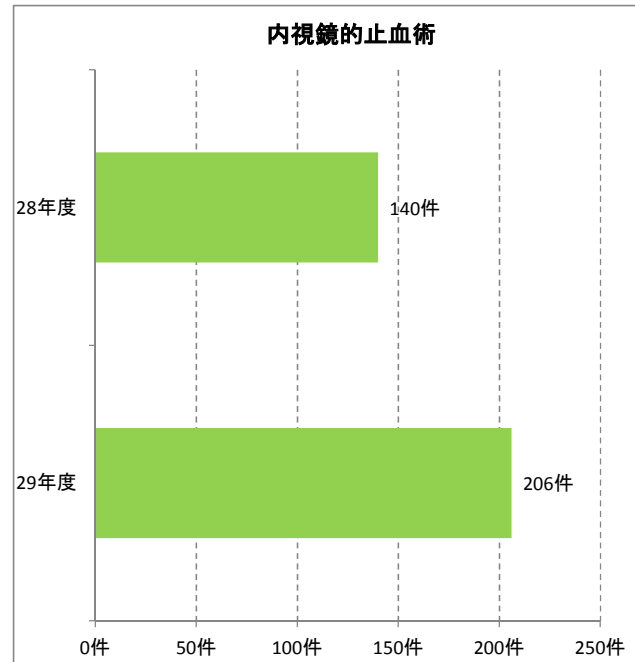
各疾患による消化管出血に対し、内視鏡的止血術の施術件数

▶ 定義

年間の治療件数です。

コメント

算式 延件数 単位 件



内視鏡的大腸ポリープ切除

▶ 項目の解説

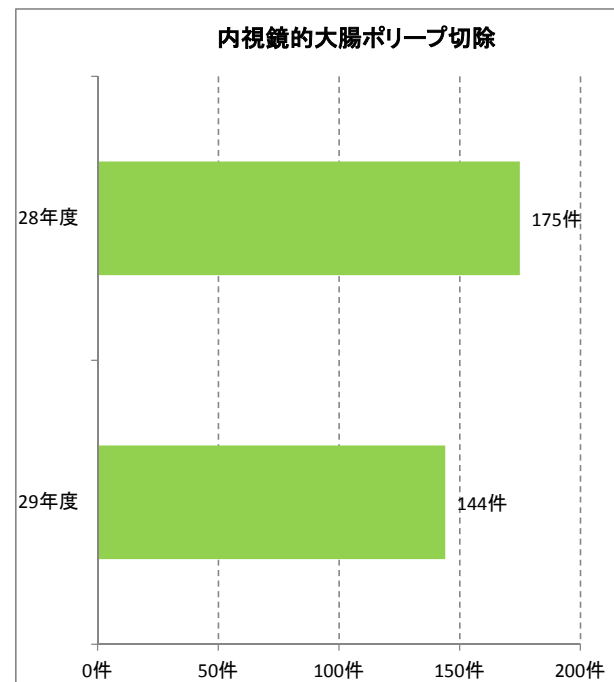
大腸ポリープに対し内視鏡を用いて施術した件数

▶ 定義

年間の治療件数です。

コメント

算式 延件数 単位 件



超音波内視鏡(EUS)件数

▶ 項目の解説

超音波装置を備えた内視鏡を用いて、消化管のなかから臓器、血管リンパ節などを詳細に観察する検査で、近年では検査のみならず、これを利用した様々な治療がおこなわれています。

▶ 定義

年間の検査件数です。

コメント

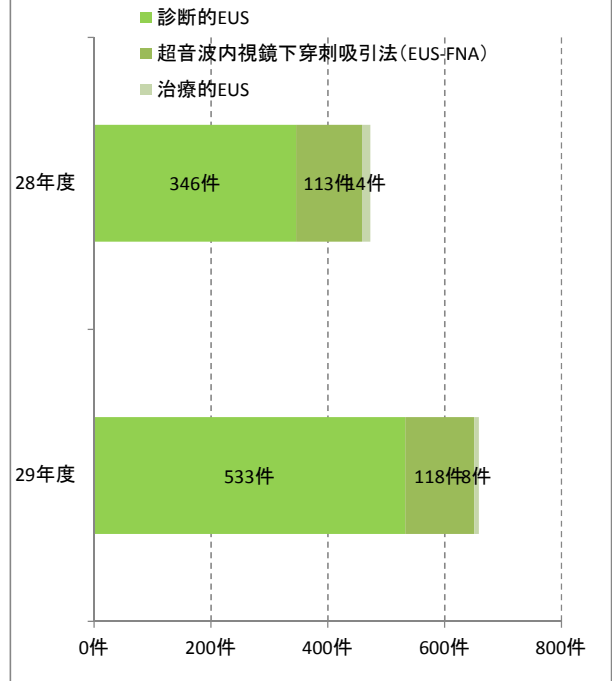
算式

延件数

単位

件

超音波内視鏡(EUS)件数



内視鏡的膵胆管造影(ERCP)

▶ 項目の解説

内視鏡的膵胆管造影(ERCP)は胆膵系疾患に対しておこなわれる検査です。
したがって、一般病院ではあまりおこなわれていません。

▶ 定義

光学医療診療部内視鏡室を利用したERCPの総件数です

コメント

ERCPは、年間400例を越えて推移しています。
その中では検査のみ件数は少なく、治療や処置に関わるものがほとんどです。
胆膵疾患におけるhigh volume centerである当院の特徴です。

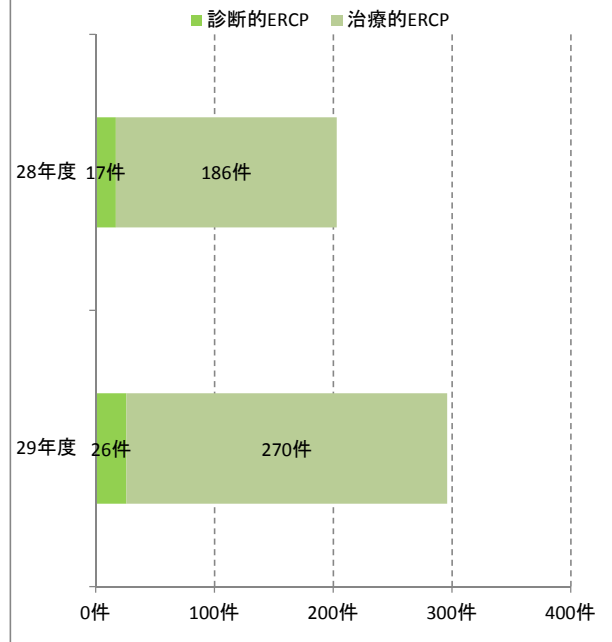
算式

延件数

単位

件

内視鏡的膵胆管造影(ERCP)



1. 一般的項目： 統合失調症圏疾患(ICD-10:F2)の平均在院日数

▶ 項目の解説

近年、精神科医療における入院医療の短縮化が課題となっています。当院でも地域の訪問看護ステーションを利用するなど、地域との連携を積極的に図り、入院期間の短縮に努め、平均在院日数を経年的に追跡することで評価を行います。

▶ 定義

統合失調症・統合失調感情障害と診断された患者が対象(妄想性障害・急性一過性精神病性障害、せん妄は除外)です。年度初日から年度末日までに上記対象疾患の入院患者の入院日数の総和を入院患者数で除した日数をここでは平均在院日数としました。

コメント

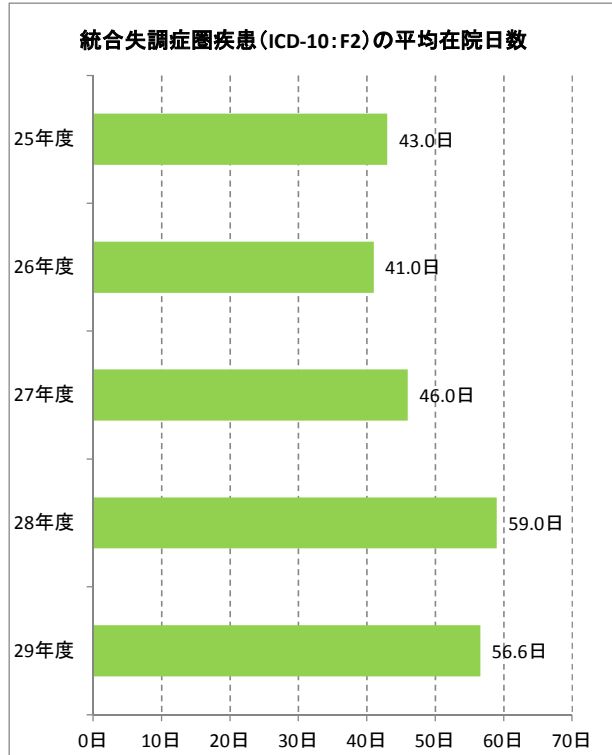
変動はあるが、平均在院日数は短縮化する傾向にあり、今後もさらなる短縮に努力していきます。

算式

平均在院日数

単位

日



2. 大学病院特有項目： 修正型電気けいれん療法の件数

▶ 項目の解説

修正型電気痙攣療法は、重症のうつ病や薬物療法に抵抗性のある統合失調症などの疾患に対する有効な治療法であるにもかかわらず、宮崎県では実施できる施設が限られています。技能の蓄積を実施経験数で評価します。

▶ 定義

年度内の施術数の総和です。1症例に対し10回施行した場合も、10症例に対し1回ずつ施行した場合も等しく10回と数えました。

コメント

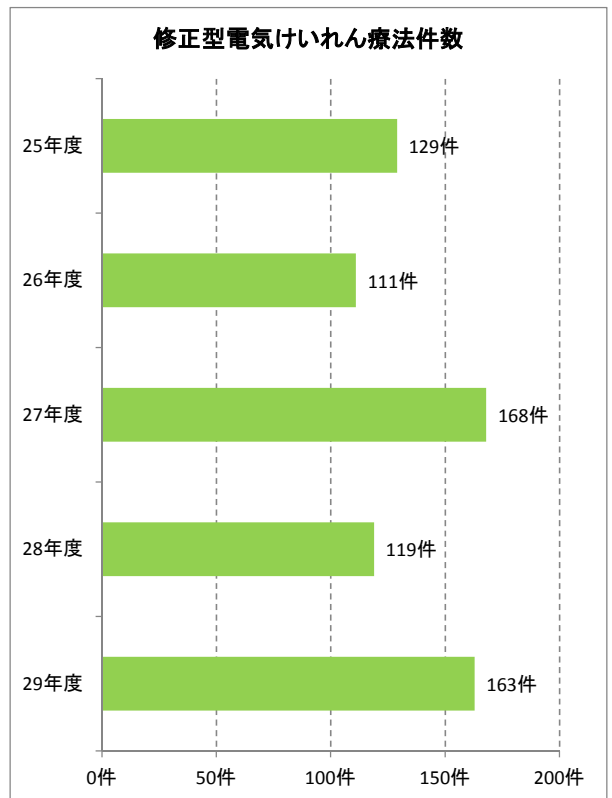
毎年度、修正型電気痙攣療法は実施され、必要とされる実施技能は伝承されています。今後も経験数を重ね、より確かな治療実績を蓄積できるよう努めていきます。

算式

延件数

単位

件



1. 一般的項目： 腎生検数

▶ 項目の解説

学校検尿などで発見される尿所見異常や腎機能障害は、慢性糸球腎炎などの基礎疾患を有している場合があります。腎生検による組織診断と重傷度評価を行うことによって、適切な治療を選択することが可能となり、予後の改善につながります。

▶ 定義

年間の腎生検症例数です。

コメント

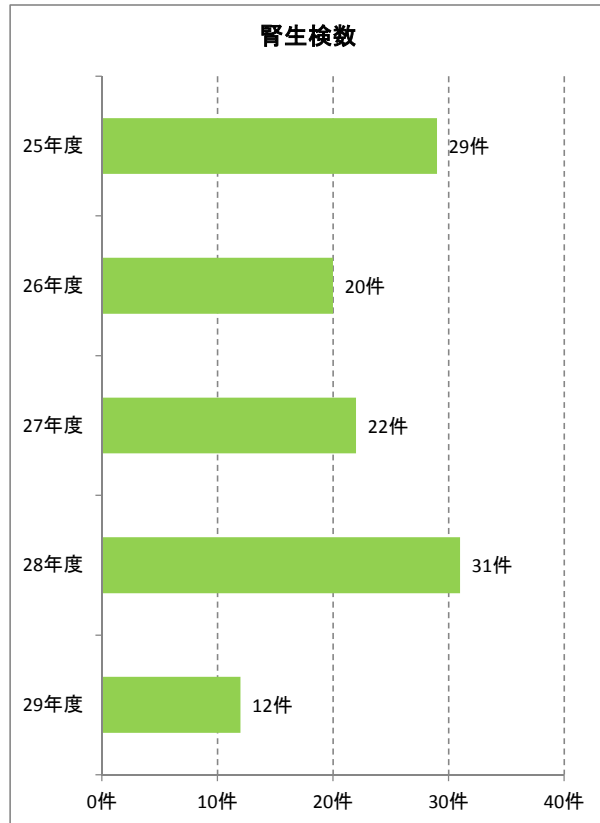
年20~30例程度の実績があり、宮崎県の小児腎疾患患者さんの早期発見、早期治療に努めています。

算式

実施数

単位

件



2. 大学病院特有項目： 自家末梢血幹細胞移植

▶ 項目の解説

本移植を通して、通常の化学療法よりもより強度の治療を行うことにより、原疾患の治療成績が向上します。

▶ 定義

年間の移植実施回数です。

コメント

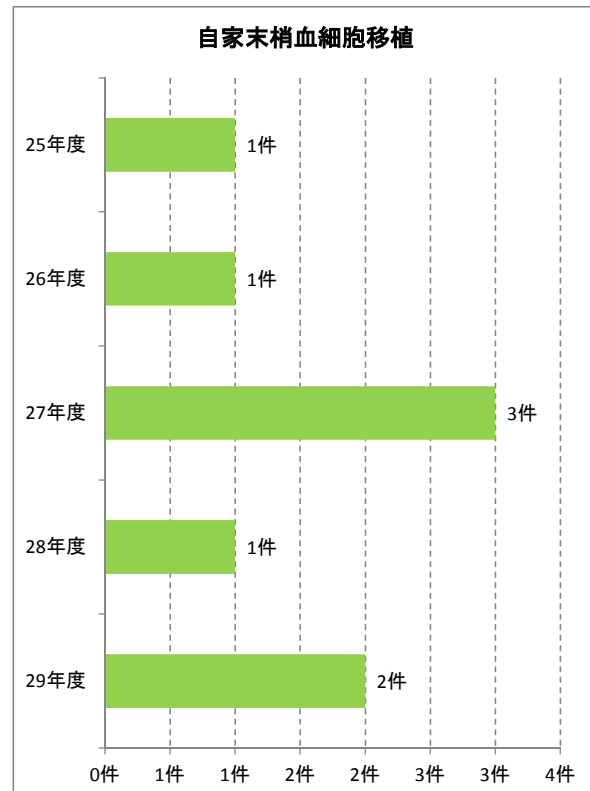
小児がんの治療成績向上に貢献しています。

算式

実施回数

単位

件



腹膜透析患者数

▶項目の解説

腎不全に対する腎代替療法として、小児では腹膜透析が選択されることが多く、近年、重症多臓器障害の患者に対する集学的治療の一つとして腹膜透析を行う機会が増加しています。

また、小児慢性腎不全患者の場合、最終的には腎移植を行うことが望ましいと考えられますが、移植までの期間の維持透析として腹膜透析を行います。

▶定義

年間の実施数です。

コメント

急性腎不全や多臓器不全に伴う腎不全に対して集学的治療の一環として腹膜透析を行い、予後の改善に努めています。

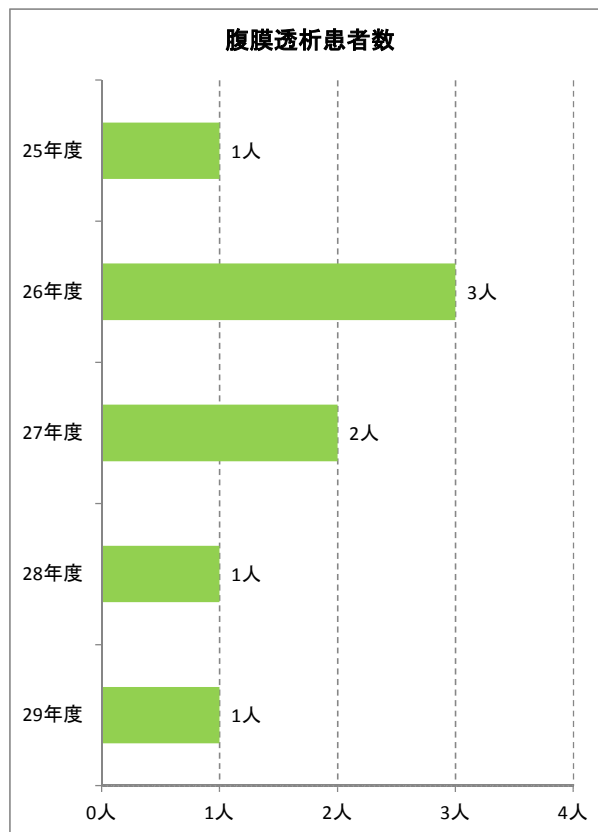
また、慢性腎不全に対して維持腹膜透析も行っており生命予後の改善に貢献しています。

算式

実人数

単位

人



在宅人工呼吸管理

▶項目の解説

重症心身障害や神経難病などに由来する、最重度の呼吸障害を伴う患者さんが在宅で生活できるよう、在宅人工呼吸管理を行います。

▶定義

とくに重症度が高い、気管切開孔を介した陽圧式人工管理を施行した在宅療養患者の年間総数

コメント

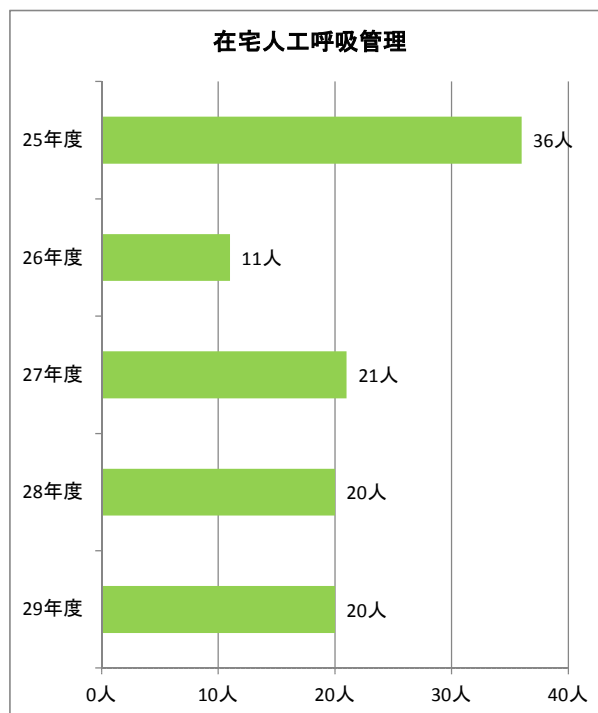
かつては退院困難だった患者さんたちが、ご自宅で過ごせるようになってきました。

算式

実人数

単位

人



1. 一般的項目:

肝胆膵高難度手術件数

▶ 項目の解説

肝胆膵領域において難度の高い手術が多くあり、これらの術式は日本肝胆膵外科学会により高難度肝胆膵外科手術として指定されています。

これらを多く行っている施設はhigh volume centerであり、術後合併症が少ないと言われ、また肝胆膵外科医の教育施設としても貢献でき、アクティビティーの高い施設と言えます。

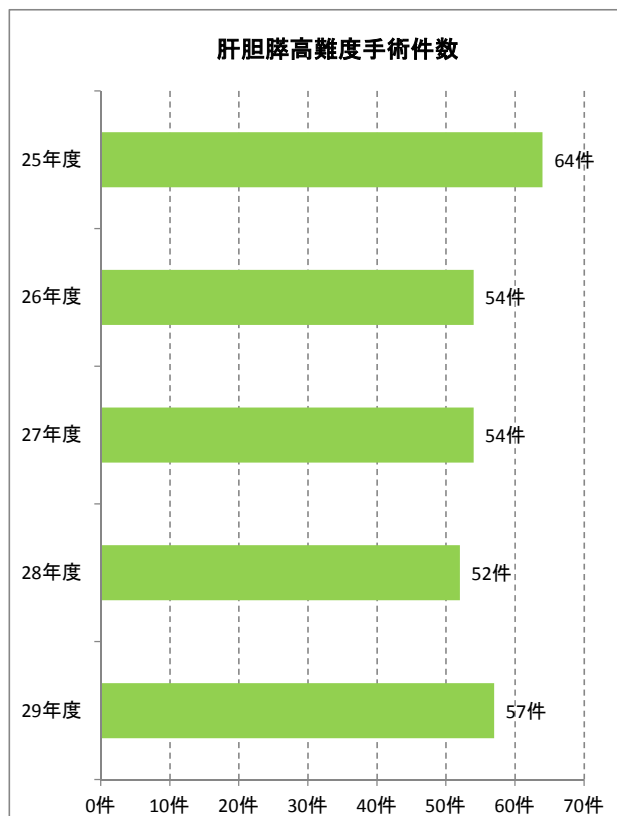
▶ 定義

日本肝胆膵外科学会により指定されている高難度肝胆膵外科手術の手術件数

コメント

年間50例以上が行われており、これにより当施設は宮崎県で唯一の日本肝胆膵外科学会高度技能専門医制度認定修練施設(A)に認定されています。

今後も件数が増加または維持されることが期待されます。



算式

延手術数

単位

件

2. 大学病院特有項目：

消化管腹腔鏡手術件数

▶ 項目の解説

腹腔鏡下手術は、従来の開腹手術に比べ患者への侵襲が少なく美容上も良好です。

腹腔鏡下手術における技術や器具の進歩により、消化管疾患に対して安全性や根治性を損なわず腹腔鏡下手術が可能となりつつあります。

消化管腹腔鏡手術件数が多いことは、最新の治療手段により患者にやさしい治療が多く行われることを意味し、病院のアクティビティを示すこととなります。

▶ 定義

腹腔鏡または胸腔鏡を用いて行われた消化管の手術件数

コメント

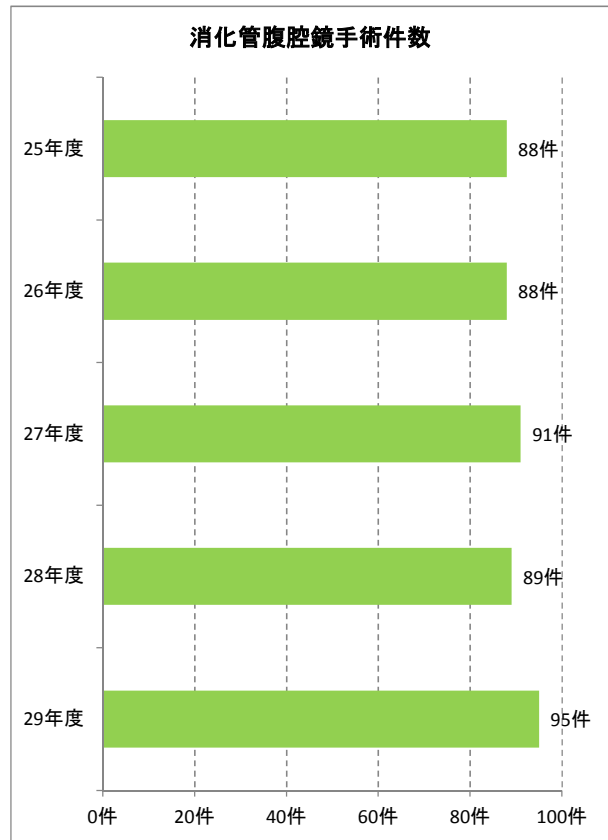
年間50-100例に行われており、今後増加することが期待される。

算式

延手術数

単位

件



心臓血管外科

心臓胸部大血管外科手術症例数

▶ 項目の解説

心臓疾患の外科治療は人工心肺という特殊な補助手段がなければ手術不可能です。最近では人工心肺を用いない冠動脈バイパス術が可能となりましたが、弁膜症では必須の方法です。心臓手術には高度のチームワークが必要であり、難度の高い手術が大学病院で行われます。

▶ 定義

年間の心臓胸部大血管外科手術数

コメント

本院は日本心臓血管外科学会の基幹施設であり、手術件数は年々増加しており、今後とも安全で確実な心臓手術を提供できるように努めてまいります。

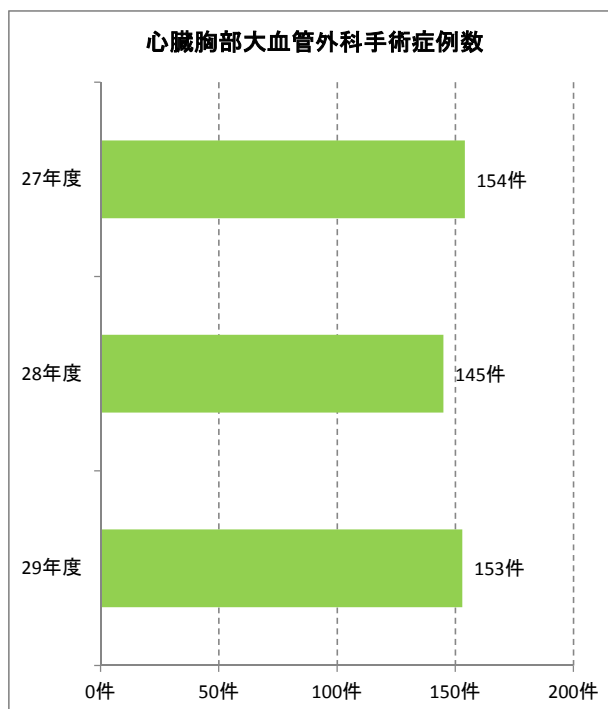
算式

年間の延手術件数

単位

件

心臓胸部大血管外科手術症例数



2. 大学病院特有項目:

ステントグラフト挿入術件数

▶ 項目の解説

かつては大動脈瘤の治療は開胸や開腹を必要とし、かつ胸部大動脈瘤は人工心肺を用いなければ手術不可能でありました。しかしながらステントグラフトの開発により、開胸や開腹の必要のない方法で治療が可能となりました。

▶ 定義

年間の胸部及び腹部大動脈ステントグラフト挿入術数

コメント

本院はステントグラフト実施施設であり、実施医は各種のステントグラフト実施の認定も受けており、病態によって最適なステントグラフト挿入術が可能であります。

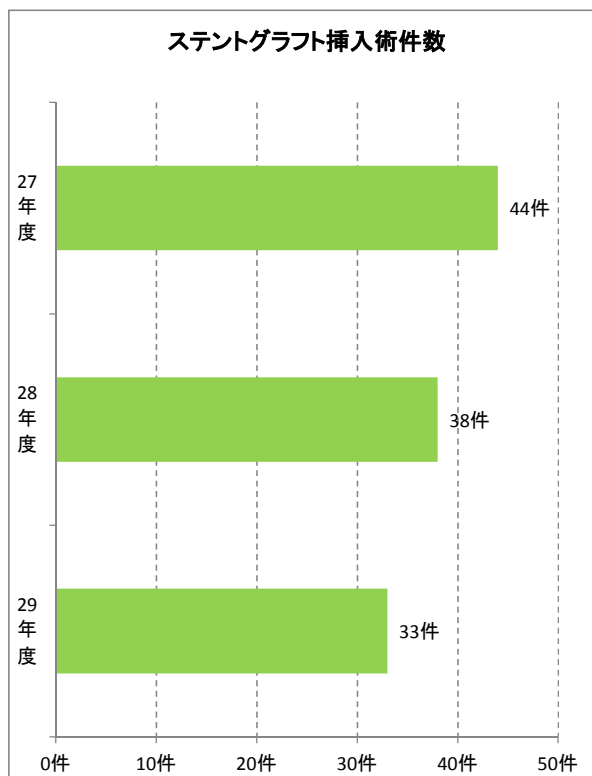
算式

年間の延手術件数

単位

件

ステントグラフト挿入術件数



1. 一般的項目： 肺がん手術症例数

▶ 項目の解説

肺がんの罹患と肺がんによる死亡は増え続けており、今後人口構成の高齢化にともないこの傾向は強まっています。肺がんに対する最も効果的な治療は手術であり、手術可能な時期に発見し、手術を中心とした治療をおこなうことが肺がん対策のカギとなります。

肺がんの手術法は近年大きな進歩を遂げています。最近では胸腔鏡を用いた体にやさしい低侵襲手術も導入してきています。

▶ 定義

年間の肺がん手術数です。

コメント

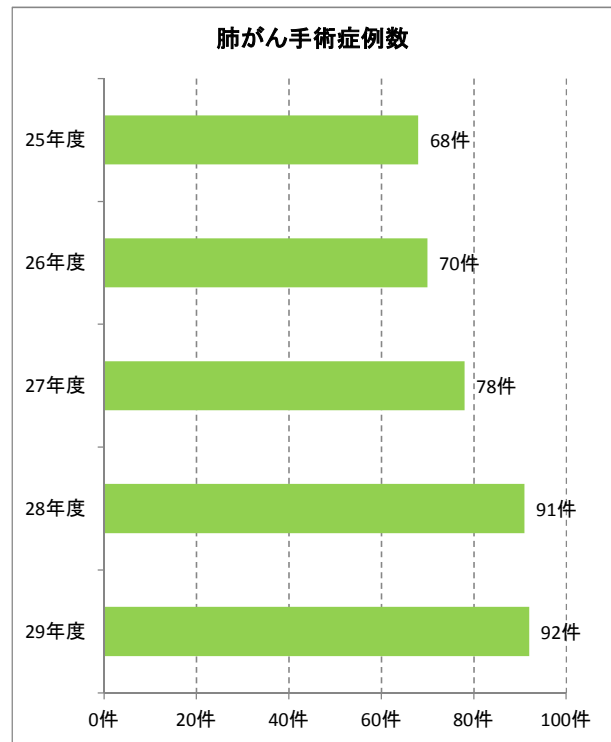
本院は日本呼吸器外科学会の基幹施設であり、今後さらに症例の増加が期待される。

算式

年間の延手術件数

単位

件



遊離複合組織移植手術(骨移植)

▶ 項目の解説

以前の下顎骨・上顎骨再建は人工物を使用した再建が多数を占めていましたが、感染症例では人工物の抜去を余儀なくされてきました。最近では、手術手技の進歩により自家骨移植が比較的簡便に行えるようになりました。

▶ 定義

年間の手術件数

コメント

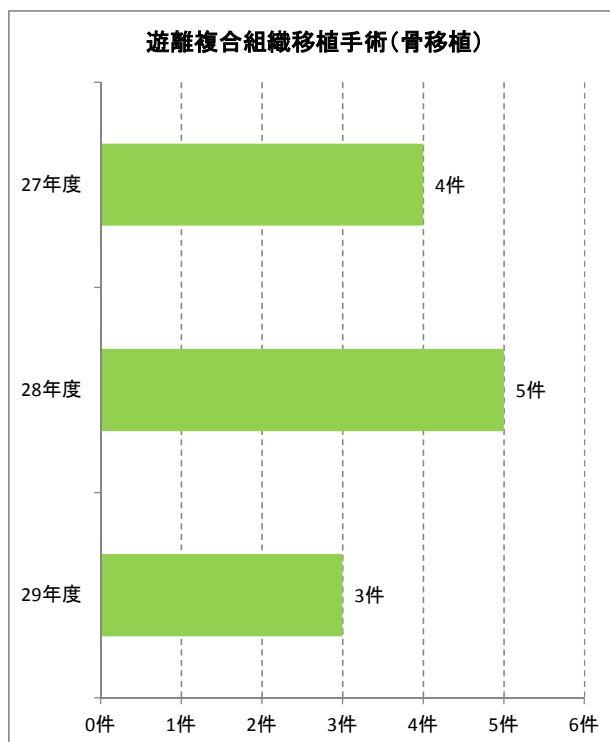
手術件数のため、ばらつきはありますが、増加傾向にあります。

算式

年間の延手術件数

単位

件



2. 大学病院特有項目:

乳房再建術(インプラント)

▶ 項目の解説

2014年から人工物(エキスパンダー、インプラント)による乳房再建が保険診療で行うことが可能となりました。当院は2018年から人工物による1次2次再建の施設認定を受け、人工物による乳房再建が可能となりました。

▶ 定義

年間の手術件数

コメント

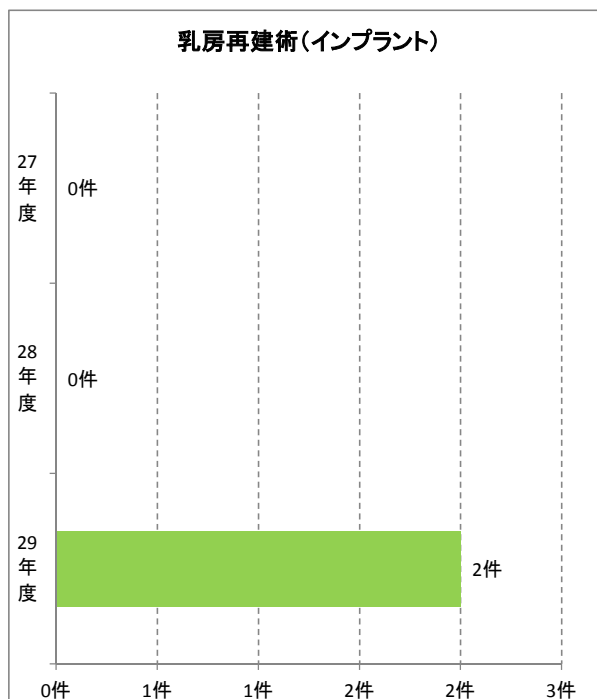
今後増加が見込まれます。

算式

年間の延手術件数

単位

件



整形外科

1. 一般的項目： 外来患者数

▶ 項目の解説

整形外科(運動器)疾患は多種多様にわたっており、本院は地方の特定機能病院として全ての疾患に対応する必要があると考えています。

外来患者数を評価し、さらには疾患ごとの患者数などを検討することで全体的評価や特徴を検討する必要があります。

▶ 定義

年間の外来患者数

コメント

平成22年5月から外来棟が新設され診察室が増加し、一度に診察できる患者数を増加させることが可能になりました。また、プライバシーへの配慮や待ち時間を減らすことなど患者サービスにも貢献できるようになっています。

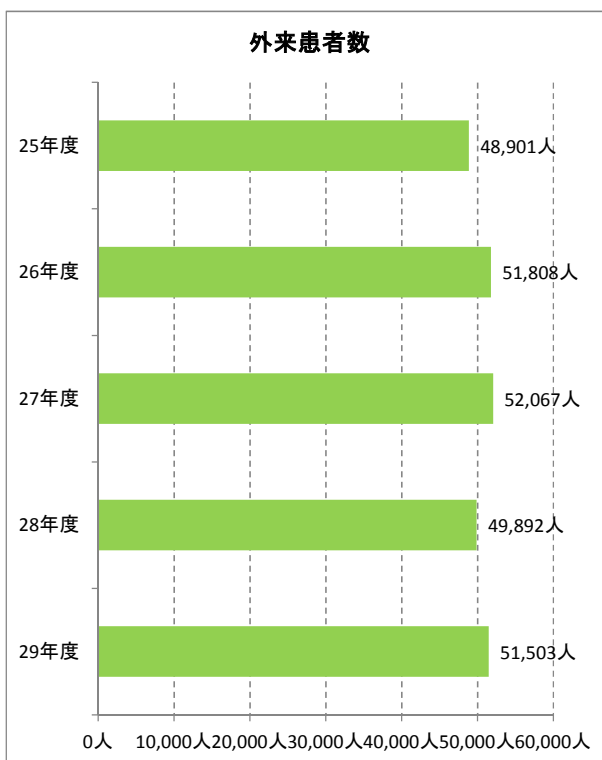
算式

延患者数

単位

人

外来患者数



入院患者数

▶ 項目の解説

入院患者数は、入院期間の短縮やベッド数の増加により待機患者の入院待ちが半年から数か月に減ってきました。

大学病院では重症疾患を多く扱っていますが、診療システムを連携することで効率的な入院運営を行いそのことを評価します。

▶ 定義

年間の入院患者数

コメント

以前のベッド数から増加し、共通病床の利用や救命救急センターの開設もあり、また各科との連携のお蔭で入院待機患者数を増やさないようにしています。

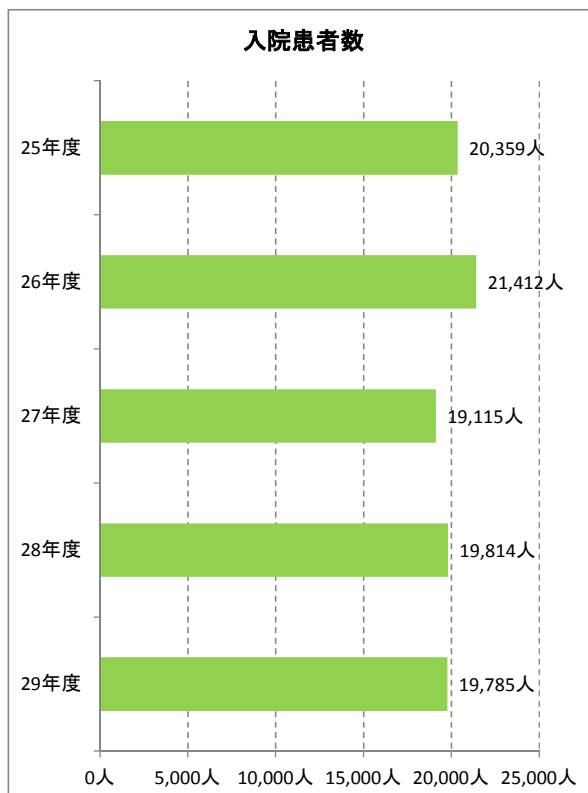
算式

延患者数

単位

人

入院患者数



手術件数

▶ 項目の解説

地方の特定機能病院として、様々な疾患に対する手術を実施することが必要不可欠と考えており、手術件数と術式などを検討する。

▶ 定義

年間の手術件数です。

コメント

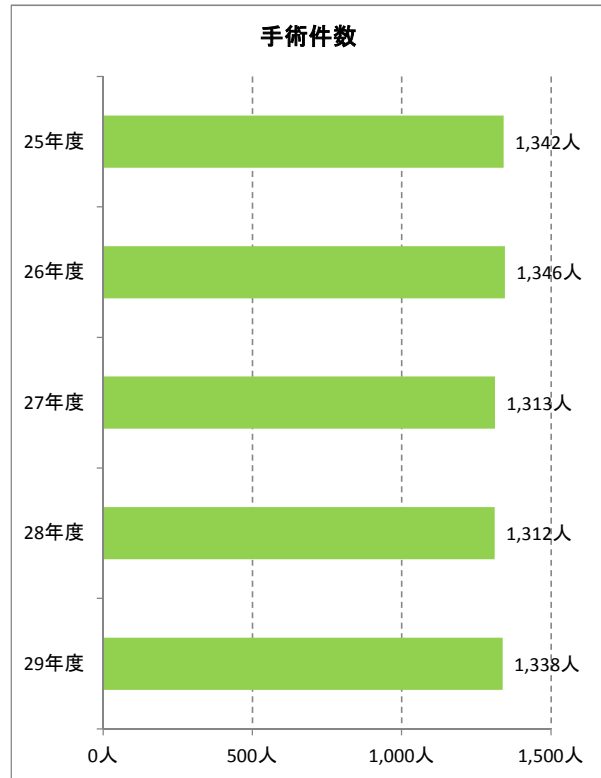
平成20年に手術室を増設後、手術件数は増加しています。救急患者の手術件数も増加しており対応できる体制を構築する。

算式

延患者数

単位

人



2. 大学病院特有項目：

体外衝撃波疼痛治療件数

▶ 項目の解説

体外衝撃波疼痛治療装置を、難治性の足底腱膜炎を中心とした疼痛性疾患に用いた診療を行っています。

本装置は、平成23年12月に難治性の足底腱膜炎に対して保険収載されたばかりであり、国内での実施件数も少ない状況です。

また、その他の疼痛性疾患に対する治療としては倫理委員会を通して実施しており、本院特有の治療法で今後が期待されています。

▶ 定義

疾患ごとの実施件数

コメント

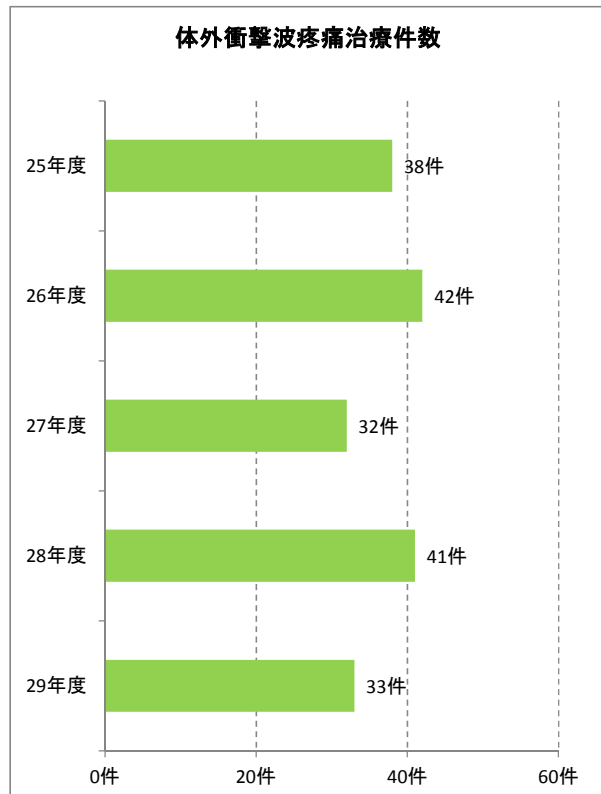
本院では足底腱膜炎が保険収載される前から治療を実施しており、スポーツ選手をはじめ疼痛で困られている患者さんへの新しい治療方法としての実績をあげています。

算式

実施件数

単位

件



皮膚科

1. 一般的項目： 皮膚悪性腫瘍の症例数(入院症例)

▶ 項目の解説

皮膚悪性腫瘍は外科的治療を中心に、化学療法、放射線治療をそれぞれのケースに併せて行っております。

▶ 定義

年間の皮膚悪性腫瘍の入院患者数です。

コメント

集学的な治療を中心に入院加療を行っております。

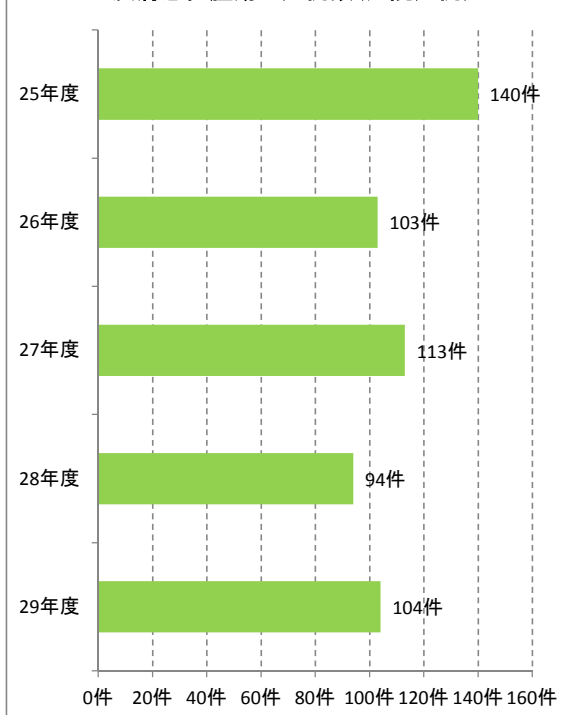
算式

延件数

単位

件

皮膚悪性腫瘍の症例数(入院症例)



2. 大学病院特有項目： 悪性腫瘍センチネルリンパ節生検症例数

▶ 項目の解説

悪性腫瘍のリンパ節転移の評価のためにセンチネルリンパ節生検を行っております。

▶ 定義

放射線RIを使用して行った症例数です。

コメント

病期(stage)を評価するのに重要な役割を果たします。

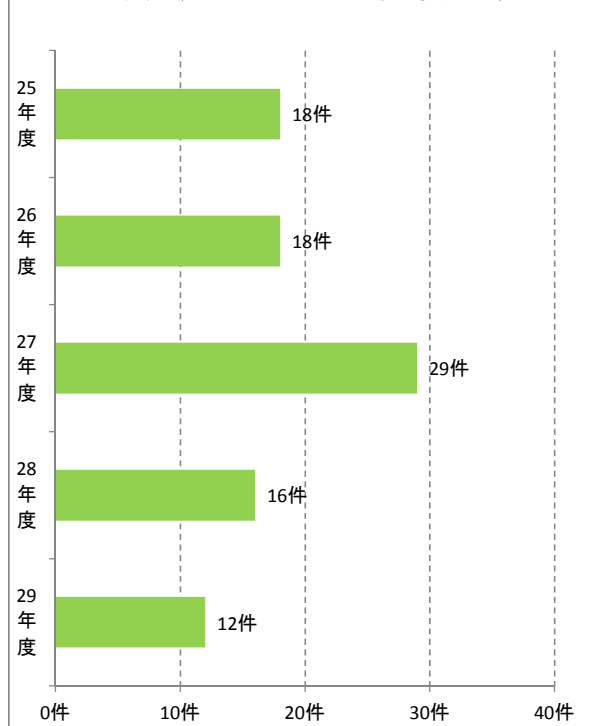
算式

延件数

単位

件

悪性腫瘍センチネルリンパ節生検症例数



1. 一般的項目： 腎臓および副腎の腹腔鏡手術(症例数)

▶ 項目の解説

腎臓および副腎は、後腹膜臓器のため腹腔鏡以前はかなり大きな切開創が必要であったが、腹腔鏡手術にて低侵襲となり、術後疼痛緩和、入院期間の短縮が実現できるようになりました。

▶ 定義

年間の手術件数です。

コメント

手術件数のため、ばらつきはありますが、増加傾向にあります。

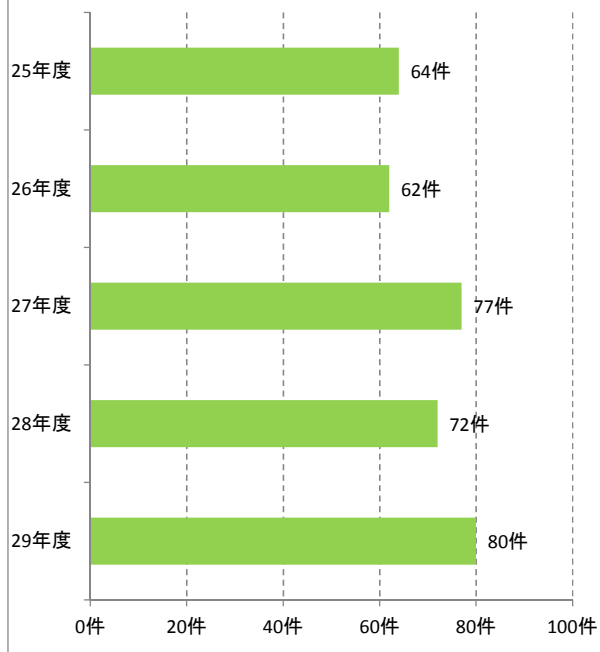
算式

延患者数

単位

件

腎臓および副腎の腹腔鏡手術 (症例数)



2. 大学病院特有項目： 前立腺癌の腹腔鏡手術(症例数)

▶ 項目の解説

前立腺表面には静脈叢が発達しているため、摘出の際、出血が多くなる場合もありましたが、腹腔鏡手術による気腹にて、出血を最小限に抑えることが可能となりました。また術後疼痛緩和が実現できるようになりました。

▶ 定義

年間の手術件数です。

コメント

手術件数のため、ばらつきはありますが、最近では年間15例以上は施行しています。

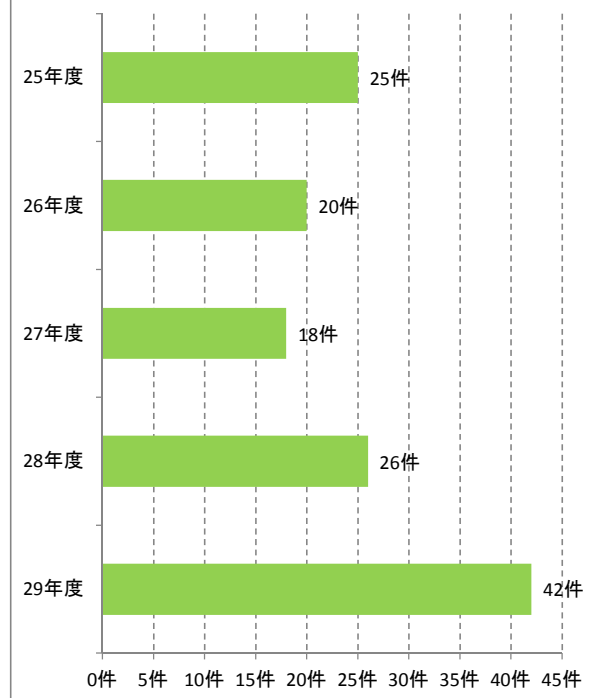
算式

延患者数

単位

件

前立腺癌の腹腔鏡手術 (症例数)



膀胱癌の腹腔鏡手術(症例数)

▶ 項目の解説

前立腺や膣周囲には静脈叢が発達しているため、摘出の際、出血が多くなる場合もありましたが、腹腔鏡手術による気腹にて、出血を最小限に抑えることが可能となりました。また尿路変向で使用する腸管の創外に脱出しないため、浮腫が軽減できました。また術後疼痛緩和が実現できるようになりました。

▶ 定義

年間の手術件数です。

コメント

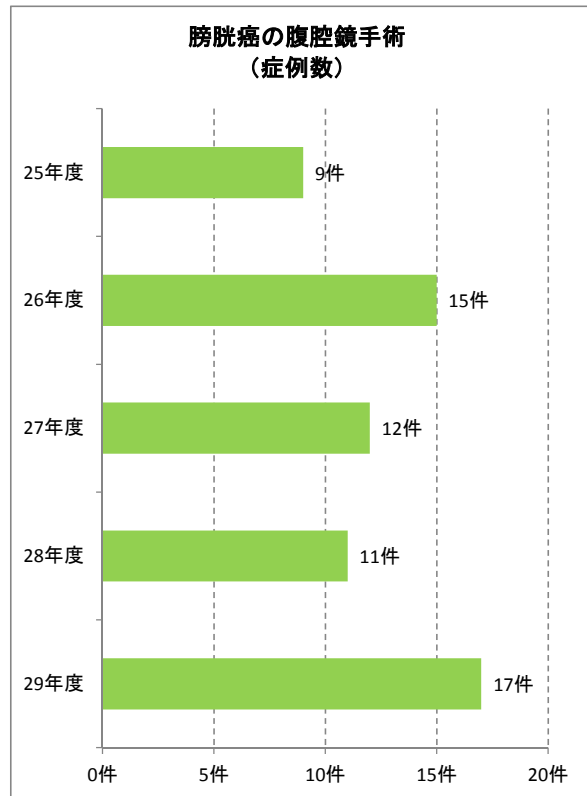
手術件数のため、ばらつきはありますが、最近は年間10例以上は施行しています。

算式

延患者数

単位

件



眼科

1. 一般的項目： 全手術件数(前房内注射、硝子体注入を除く)

▶ 項目の解説

小切開での網膜硝子体手術から小児の斜視手術まで多岐にわたる眼疾患の手術を行っており、眼科領域のほぼすべてを網羅しています。緊急手術の対応や全身管理が必要な患者さん、近医での手術が困難な難症例にも対応しており、その実績を数値で評価します。

▶ 定義

1年間の当科での手術患者数です。外来手術で行う硝子体内注射は含まれません。

コメント

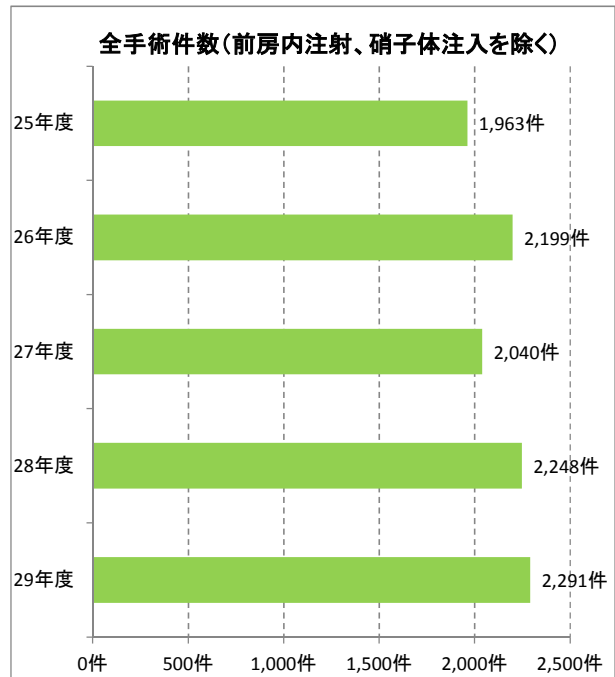
症例数は年々増加し、さらに難易度の高い手術も増えています。患者数の増加に伴い、短期入院での手術も増加しました。

算式

1年間の手術数(硝子体内注射を除く)

単位

件



2. 大学病院特有項目： 術後眼内炎発生率

▶ 項目の解説

感染により手術後に生じる眼内炎は、視機能を著しく低下させる重大な合併症の一つです。眼内炎の発症予防に十分注意することで、良好な手術成績を保つことができるため、その実績を評価します。

▶ 定義

1年間当科での手術患者で眼内炎を発症した割合です。

コメント

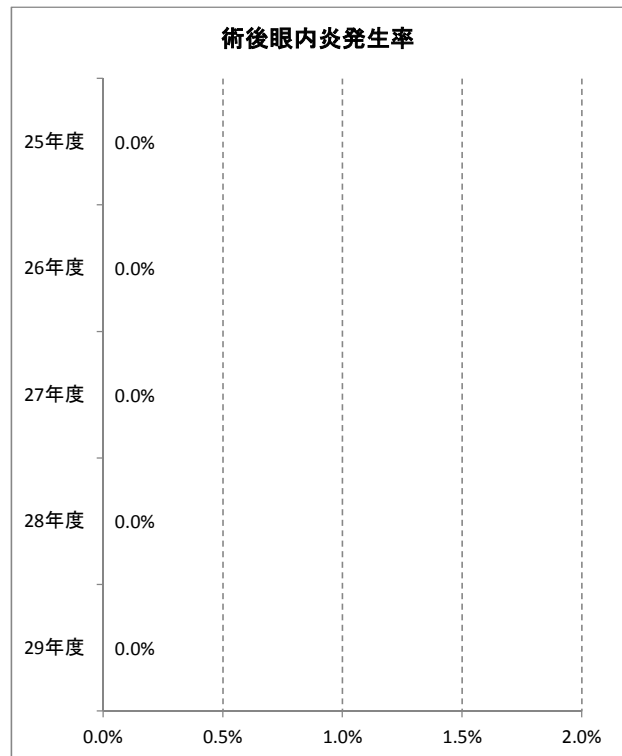
合併症である眼内炎はここ数年間発生しておらず、良好な手術環境、創部の管理が成果を上げています。

算式

分子:1年間の眼内炎発生数
分母:1年間の全手術数

単位

%



耳鼻いんこう・頭頸部外科

1. 一般的項目： 耳科手術件数(鼓室形成、鼓膜形成)

▶ 項目の解説

鼓室形成術は耳鼻咽喉科機能手術の中でも代表的なもので、2017年までは週刊朝日MOOKでも全国ランキングの一項目として掲載されていました。

▶ 定義

年間の手術件数です。

コメント

週刊朝日MOOKによると当院の全国ランキング2017年版で5位となっており、宣伝効果も高いと思われます。

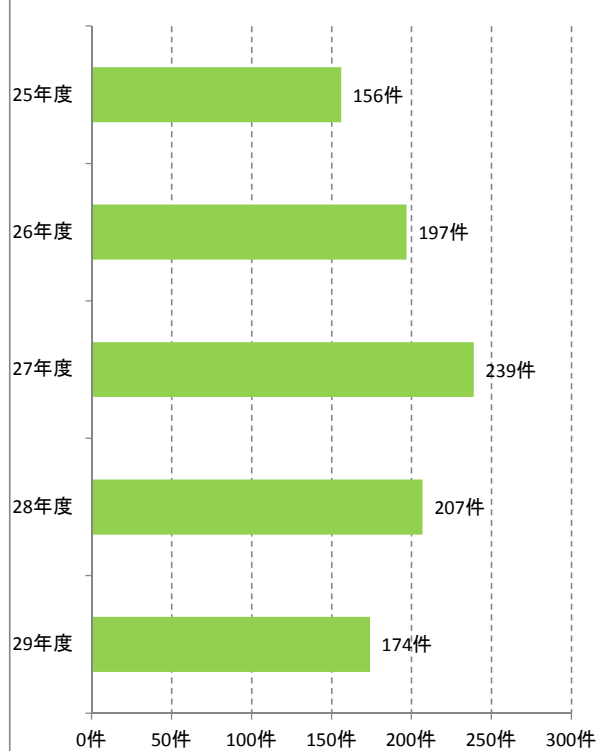
算式

延患者数

単位

件

耳科手術件数(鼓室形成、鼓膜形成)



2. 大学病院特有項目： 頭頸部悪性腫瘍手術

▶ 項目の解説

頭頸部悪性腫瘍の根治的切除、機能的・整容的再建を含む手術を行っています。

▶ 定義

手術件数です。

コメント

がん拠点病院として頭頸部がん治療の中心的役割を担っていることが分かります。

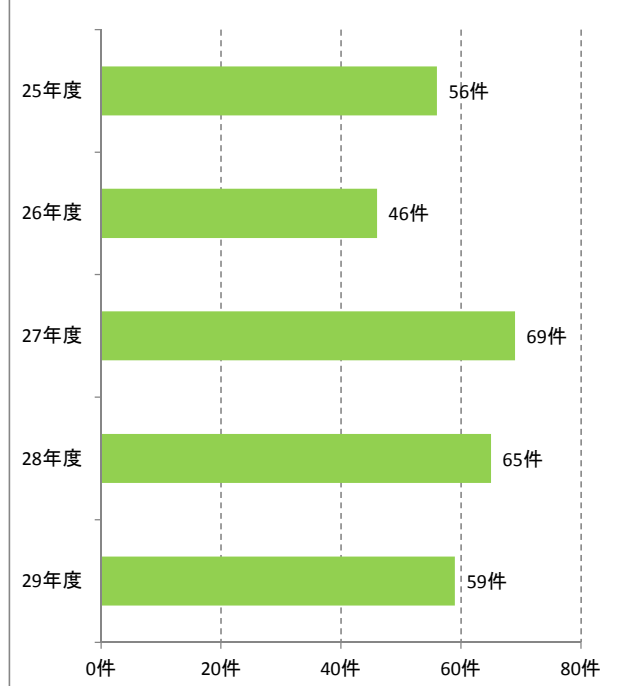
算式

延患者数

単位

件

頭頸部悪性腫瘍手術



1. 一般的項目： 婦人科腫瘍(0期を除く)初回治療件数

▶ 項目の解説

宮崎県がん拠点病院として、大学病院産婦人科での婦人科腫瘍の総数を示します。

婦人科がんには、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、外陰癌、陰癌などがあります。

初回治療として手術、放射線療法、化学療法などがあり、集学的に婦人科腫瘍を治療するための多診療科間協力と、看護師、薬剤師、診療放射線技師などとの共同が必要です。この数値は、大学における体制やスタッフ、施設の充実度を示します。

▶ 定義

子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、外陰癌、陰癌などの初回治療の総数を示します。

コメント

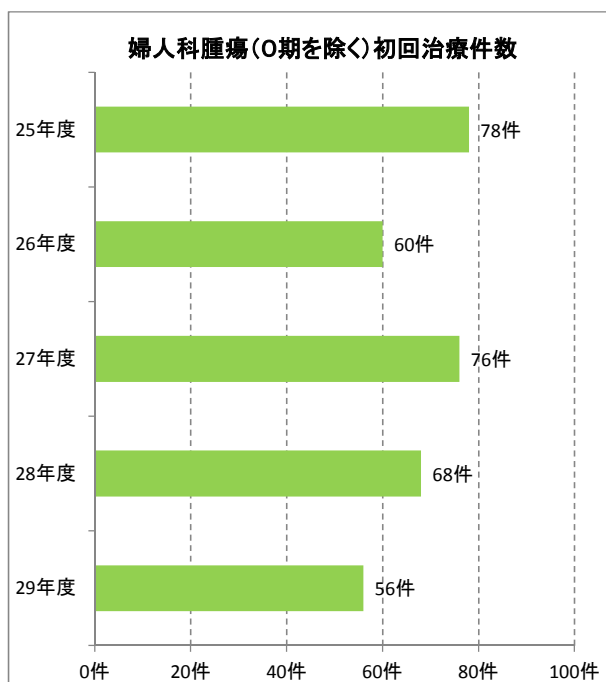
多少の波はあるものの、全体として一定～増加傾向にあります。

算式

初回治療件数
(治療者)数

単位

件



2. 大学病院特有項目： 早産(28週未満)の母子管理数

▶ 項目の解説

周産期医療の中でも28週未満の早産児の予後は不良です。

そこで、28週未満、1000g未満の超低出生体重児は第3次医療施設である大学病院での集学的管理が重要で、小児外科、小児循環器、脳外科、眼科、耳鼻科などの多診療科の協力が重要です。

この数値は、周産期医療を専門的に取り組む大学における体制やスタッフ、施設の充実度を示します。

▶ 定義

母体-胎児-新生児をひとつのユニットとして数えます。(通常は母体数)

コメント

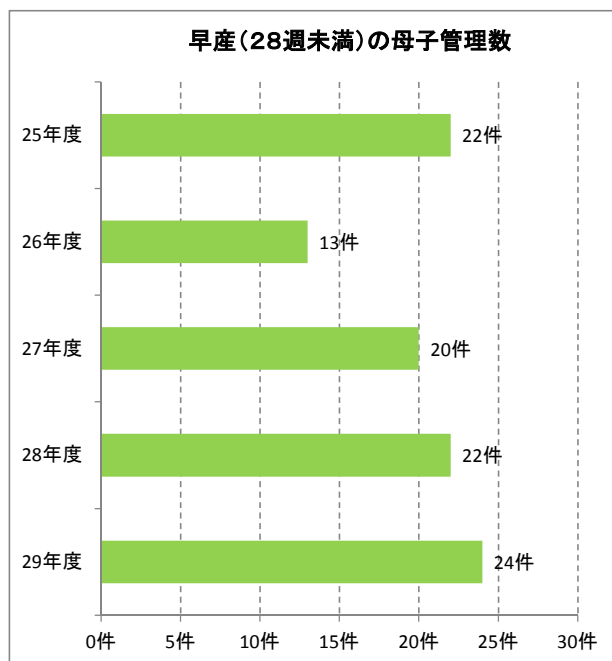
早産の総数は減少していないが、その中の超早産数(28週未満)は減少の傾向を示しています。その大部分は大学病院で管理されています。

算式

在胎28週未満の
超早産の管理数

単位

件



放射線科

1. 一般的項目: PETの件数

▶ 項目の解説

PET/CT検査は大学病院における高度のがん診療に欠かせない診断方法です。

▶ 定義

件/年

コメント

検査件数としては減少傾向ですが、これは検査の適応の変化に伴うものであり、癌診療に貢献していることには変わりなりと考えます。

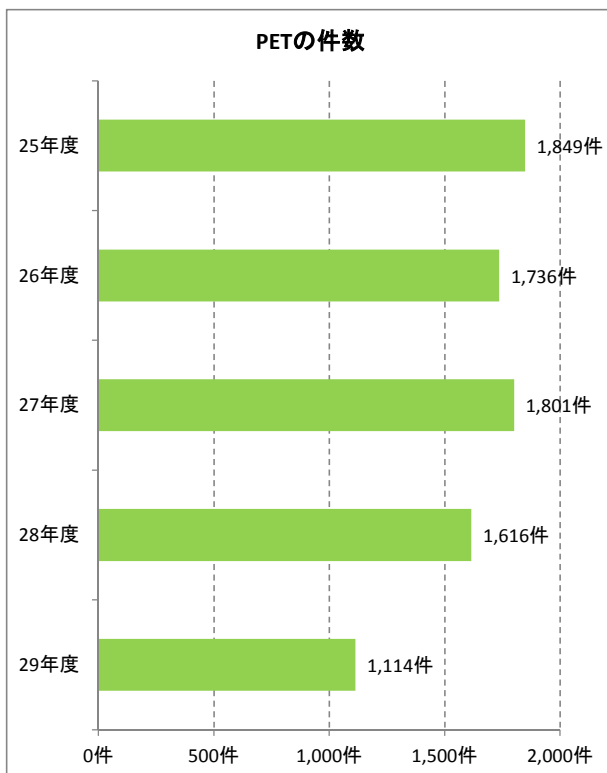
算式

件数

単位

件

PETの件数



甲状腺癌のI131内用治療件数

▶ 項目の解説

甲状腺癌の全摘術後の治療法です。県内では事実上、大学のみで行える治療であり、甲状腺癌の治療に大学病院が貢献している指標の一つと考えます。

▶ 定義

件/年

コメント

分子標的薬の開発などにより治療適応にも変化があります。しかし、県内では大学病院でしか行えない治療であることには変わりなく、今後も宮崎県民の癌治療に貢献していきます。

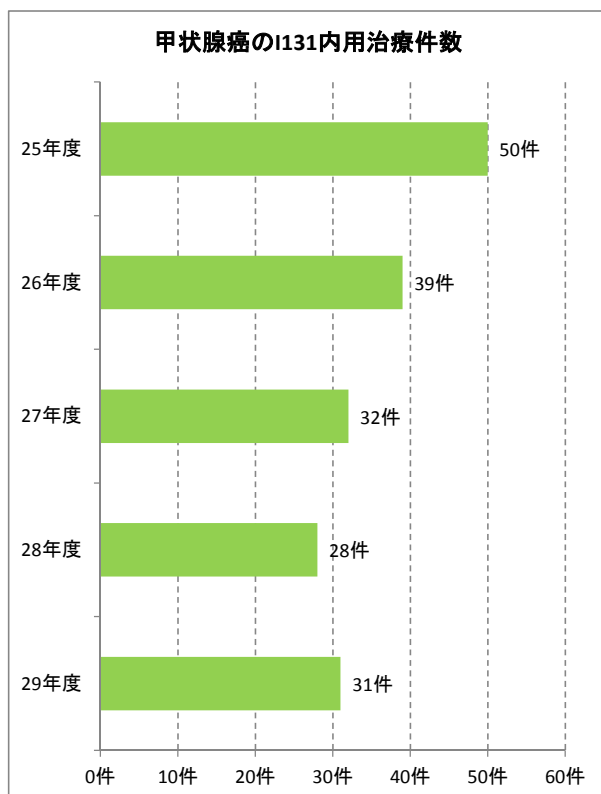
算式

件数

単位

件

甲状腺癌のI131内用治療件数



2. 大学病院特有項目：放射線治療の件数(大学病院しかでき難いものとしてIMRT, 全身照射などを含んで)

▶項目の解説

放射線治療は機能と形態を温存できる癌の治療法であり、IMRTなど新しい治療法も開発されています。放射線治療には高額な機器と極めて専門性の高い放射線専門医や放射線治療専門診療技師が必要です。

放射線治療は癌治療にはなくてはならない治療法ですので、施設の充実度も反映する指標と考えます。

▶定義

件／年

コメント

放射線治療は厳しい管理の下で行われる治療であり、治療医や検査技師、看護師などが癌患者さんと直接対話を行いながら、予定通りに治療を行い治療効果を高めています。

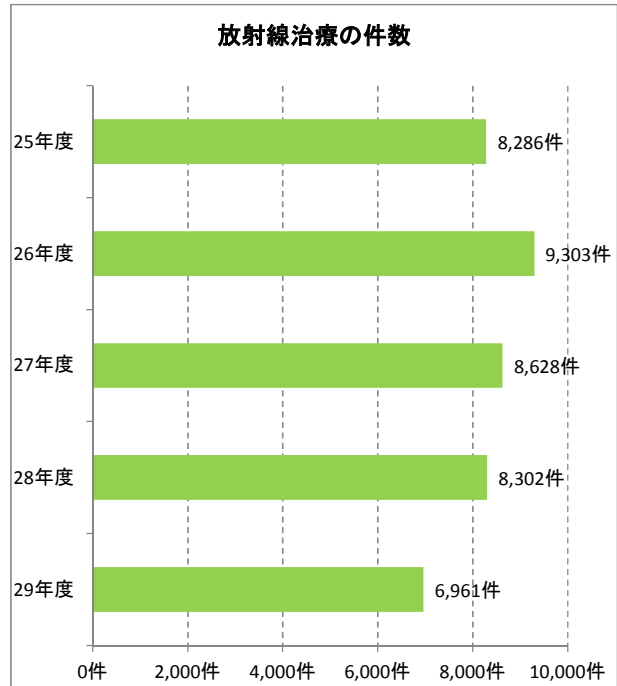
実施件数が大幅に減少していますが、治療法の変化、適応の変化、スタッフ減少に伴うものであり、癌診療に貢献していることには変わりありません。

算式

件数

単位

件



IVR

▶項目の解説

IVRは画像診断技術を応用した手術であり、IVR単独で効果を得るものだけではなく、内科的・外科的治療をサポートする治療まで応用範囲はとて広いです。外傷患者も含め、多くの診療科の治療のリレーにより命を繋ぐ症例も多く、各診療科の技術レベルが高い大学病院においてはIVRは必要な治療である。

▶定義

1年間に放射線科IVR医が施行したIVR症例件数です。

コメント

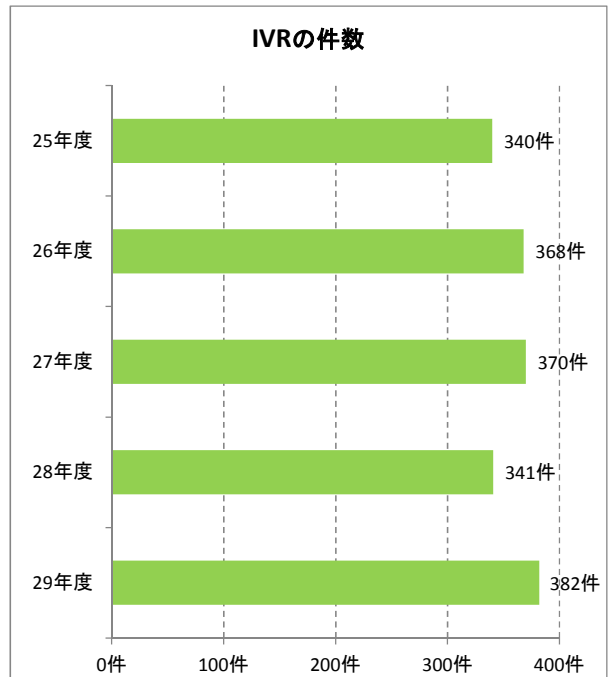
緊急症例を含め、多種類のIVRを行っています。他大学と比較しても、種類・件数ともに多く、特に、緊急症例に対しては大学病院では例を見ない件数に対応しています。

算式

1年間のIVR施行件数

単位

件



麻酔科

1. 一般的項目： 麻酔科管理症例数

▶ 項目の解説

手術室で麻酔科医がかけた麻酔症例数です。年々増加しています。

▶ 定義

年間の麻酔科管理手術症例数です。

コメント

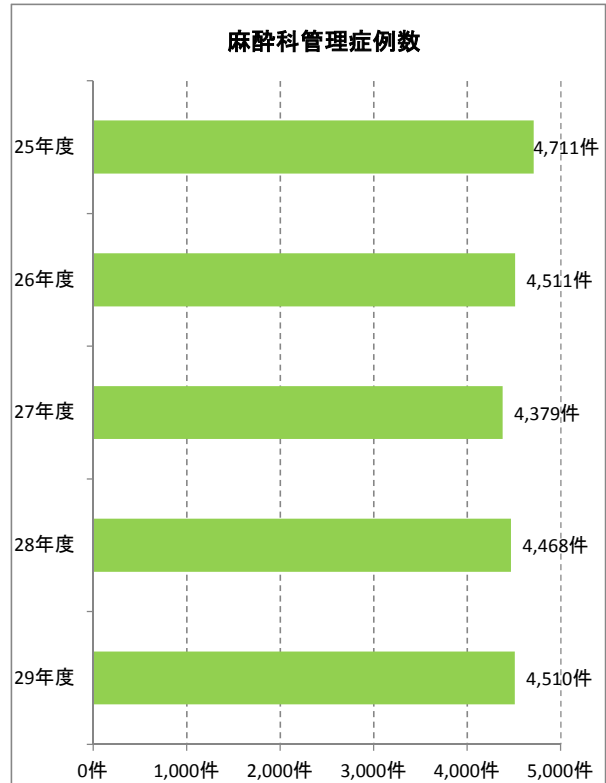
近年、症例数は4,500前後で安定しています。

算式

年間の麻酔科管理
の手術症例数

単位

件



2. 大学病院特有項目： ペインクリニック外来延患者数

▶ 項目の解説

ペインクリニックを受診した患者さんの数です。
難治性疼痛に罹患した患者さんが多く受診します。

▶ 定義

年間のペイン外来受診者数です。

コメント

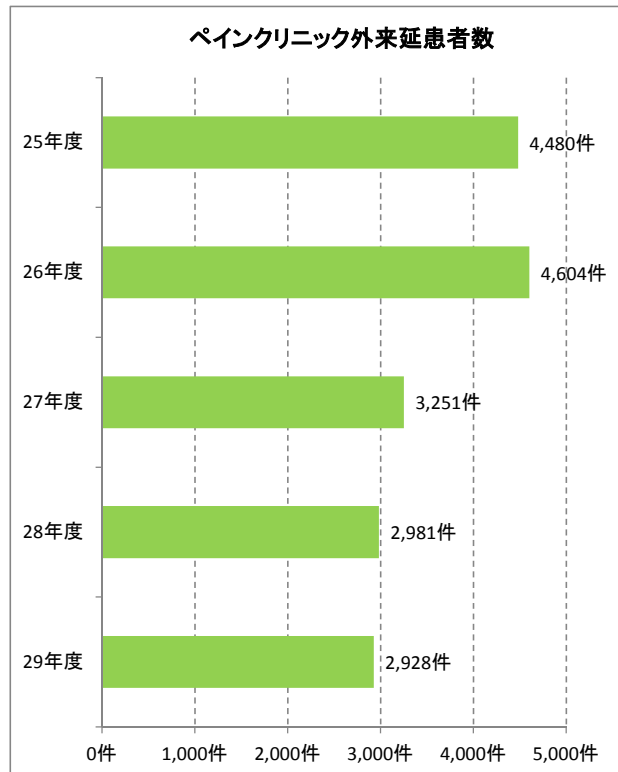
外来受診のみならず、透視下神経ブロックや入院での持続硬膜外鎮痛等も行っています。人員不足、やや症例数が減少傾向です。

算式

延患者数

単位

件



脳神経外科

1. 一般的項目:

tPA治療患者数

▶ 項目の解説

急性期脳梗塞(脳塞栓)に対して、近年tPAの静注が有効な治療として承認されました。

一般的には、脳卒中を急性期に扱う救急病院で件数が高くなる指標ですが、本院においても救急部が整備され、今後適応患者が増加するものと思われます。

現在、発症後3時間以内の脳梗塞のみ適応が認められていますので、この数値は、脳卒中の急性期をいかに診療しているかを示す指標の1つとなります。

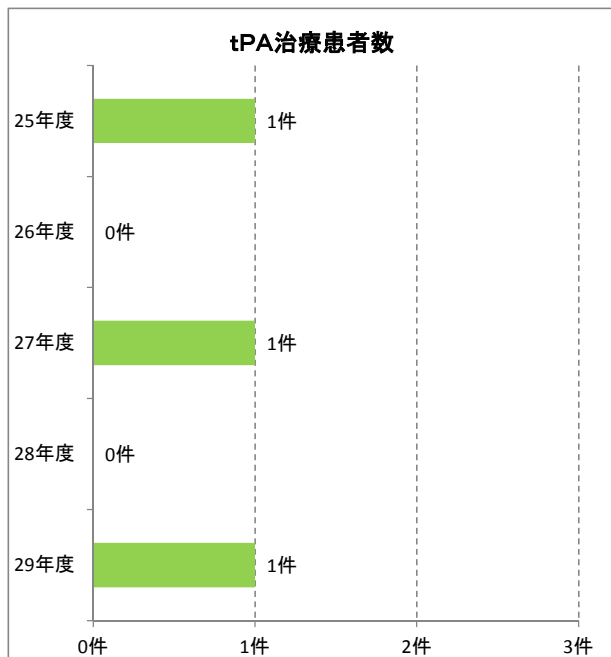
▶ 定義

年間の脳梗塞急性期に対してtPAを受けた患者数です

コメント

これまでは、年間数件の治療件数に留まっています。これには治療開始の適応が発症4.5時間以内であることがネックでした。

平成28年度より救急部がリニューアルされ、救急患者数が増加しており、今後4.5時間以内に搬入される患者の増加が見込まれています。



算式

延患者数

単位

件

脳血管内治療件数

▶ 項目の解説

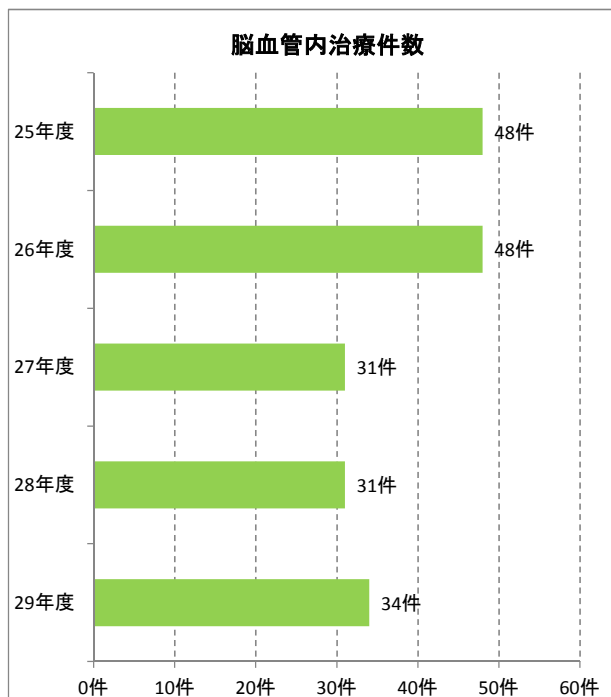
脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻、腫瘍栄養動脈塞栓術等に留まらず、近年では脳動脈瘤コイル塞栓術や血栓除去術などにおいても脳血管内治療の守備範囲が拡大しており、アクティビティを示す指標となり得るため。

▶ 定義

脳血管内治療により治療を受けた件数

コメント

脳血管内治療学会認定指導医・専門医の存在する研修施設として機能できるため、専門医育成・教育にもかかわれ、県内のリーディングホスピタルとして存在できます(平成30年4月1日より)。



算式

延患者数

単位

件

2. 大学病院特有項目：

脳腫瘍の手術数

▶ 項目の解説

脳腫瘍は、脳内に発生し、周囲脳組織に浸潤する性格をもつタイプと脳外の脳神経、下垂体、髄膜より発生し脳を圧排しながら発育するタイプの2つに分けられます。

前者は、手術のみでは治癒は得られず、放射線・化学療法を含めた集学的治療を必要とします。

一方、後者では摘出術により治癒が得られる可能性があります。そのためには各種手術支援装置を用いてより安全に摘出する必要があります。

従って、脳腫瘍の手術は、十分な手術体制を整え、かつ適切な後療法を行える大学病院が中心とならざるを得ません。

この手術数は、脳神経外科においてスタッフと設備の充実を同時に評価しうる指標の1つです。

▶ 定義

年間の脳腫瘍に対する手術を受けた患者数です。

コメント

平成21年、22年においては、全国の脳神経外科を有する施設中、40位前後の脳腫瘍手術数です(朝日新聞による)。

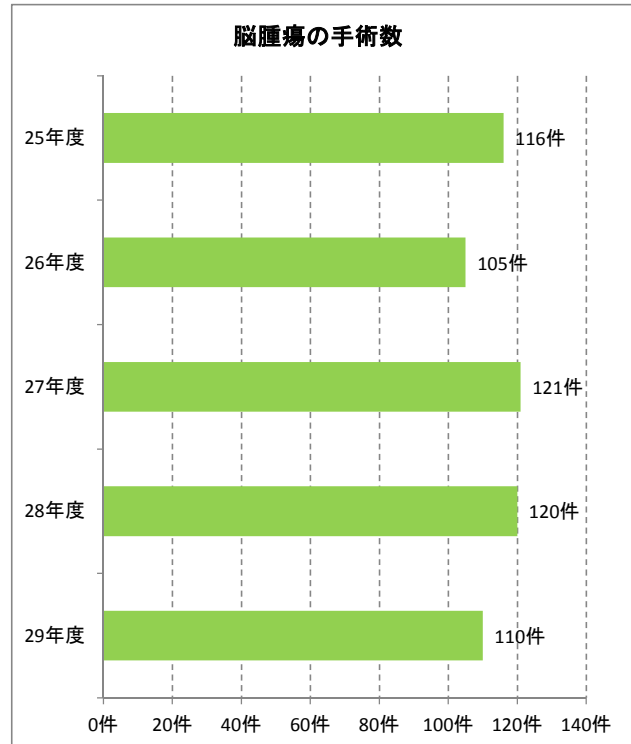
これは、年々増加傾向にあり、さらなる件数の増加、治療成績の向上に努めています。

算式

延患者数

単位

件



2. 大学病院特有項目：

ナビゲーションや電気生理モニターを用いた脳腫瘍の手術件数

▶ 項目の解説

大学病院においては、脳腫瘍患者も頭蓋底を始め、難易度が高い症例が多いため、ナビゲーションや電気生理モニターを用いた手術症例が増加しており、本県においては大学病院に特異的指標となるため。

▶ 定義

ナビゲーションや電気生理モニター(SEP, MEP, VEP, ABR, Facial monitor, X-monitorなど)を用いた脳腫瘍の手術件数

コメント

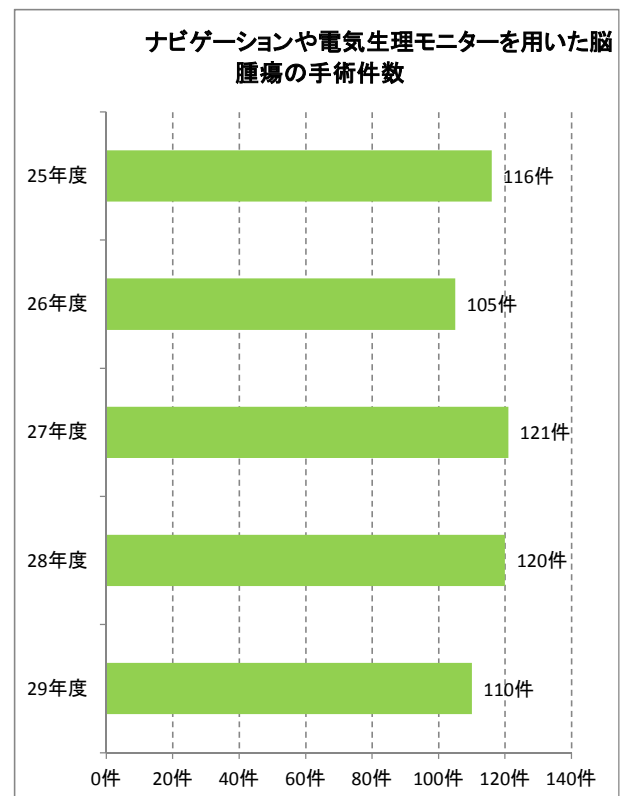
宮崎県内で最大の脳腫瘍治療施設として機能しており、ここ数年間は100件を超える脳腫瘍手術件数を誇ります。手術だけでなく脳腫瘍の遺伝子診断に基づいた後療法も継続して行っています。

算式

延患者数

単位

件



歯科口腔外科・矯正歯科

1. 一般的項目:

総手術件数

▶ 項目の解説

顎顔面領域の手術では、顔面の審美性、緊密な咬合接触、および咀嚼・嚥下機能を考慮して処置を行う必要があります。歯科口腔外科専門医と矯正歯科専門医が常勤し、一体となって診断・治療に当たりますので、質の高い治療が可能です。

▶ 定義

年間の全身麻酔下手術件数

コメント

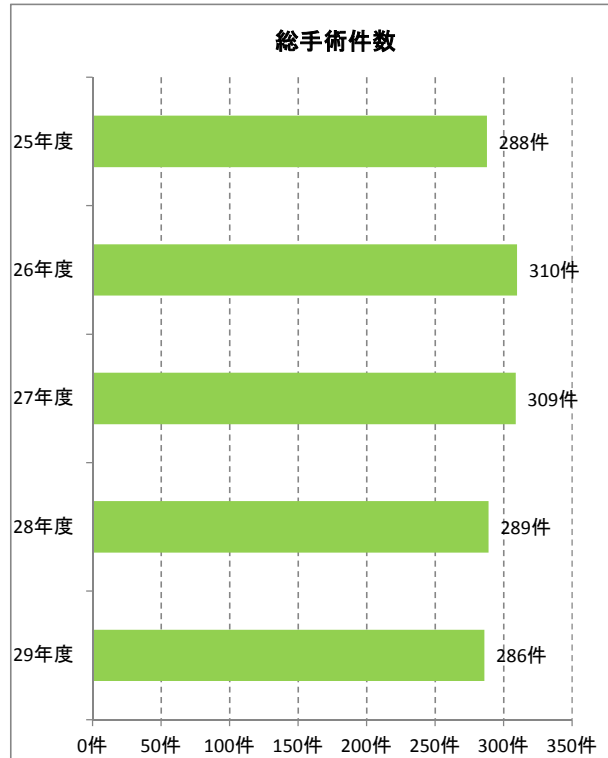
一定の件数を保っています。救命救急センターの開設・ドクヘリの稼働開始に伴い、顎顔面領域の外傷症例も増えています。

算式

年間の手術件数

単位

件



口腔がん手術件数

▶ 項目の解説

口腔がんは手術が治療の主体となります。

▶ 定義

年間の口腔がんに対する全身麻酔下手術施行件数です。

コメント

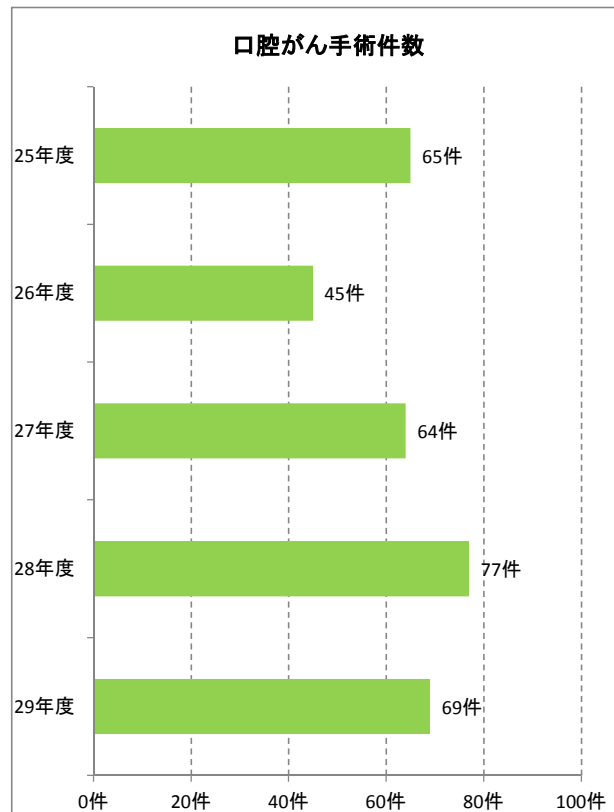
一定の件数を保っています。

算式

年間の手術件数

単位

件



口唇口蓋裂・その他先天疾患・顎変形症症例に対する手術件数

▶ 項目の解説

当院は障害者自立支援医療(育成医療)、顎口腔機能診断の指定医療機関です。口唇口蓋裂、41の先天疾患、および下顎前突などの顎変形症の手術に健康保険が適応されます。

▶ 定義

口唇口蓋裂・その他先天疾患・顎変形症に対する全身麻酔下手術施行件数です

コメント

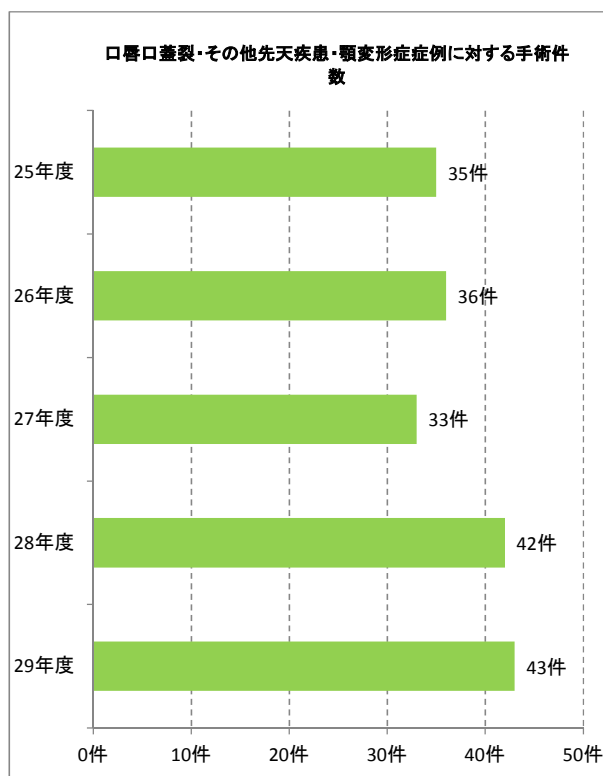
橋通り歯科口腔外科クリニックを障害者自立支援医療施設にし、より通院しやすい環境を整えたことなどにより、件数が増えています。

算式

年間の手術件数

単位

件



周術期口腔管理

▶ 項目の解説

全身麻酔の手術や化学療法、放射線治療では、重度の口内炎や歯周炎、口腔乾燥を生じ、肺炎や感染のため、入院の主目的である治療自体に支障をきたすことがあります。このため、平成24年度から周術期の口腔管理に保険が導入されました。悪性腫瘍の手術、化学療法・放射線療法、心臓血管外科手術、臓器移植などの前後に、感染源となる歯の治療や抜歯、口腔衛生管理を行います。

▶ 定義

件/年

コメント

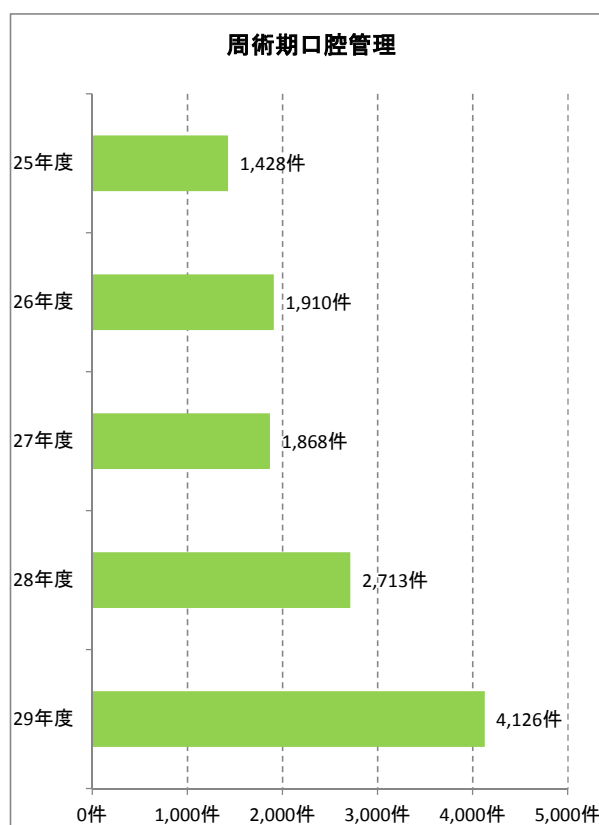
平成24年度から周術期の口腔管理に保険が導入され、各診療科からご紹介をいただいておりますが、まだまだ紹介率が低く、管理開始のタイミングも遅い傾向にあります。委員会などでの周知やリーフレット製作を行い、紹介率の向上に努めています。

算式

年間の延患者数

単位

件



広範囲顎欠損支持型装置埋入手術

▶ 項目の解説

病変や手術等で失った咀嚼機能をインプラントを用いて再建する手術です。

▶ 定義

1年度あたりの全身麻酔下で行った手術件数です。

コメント

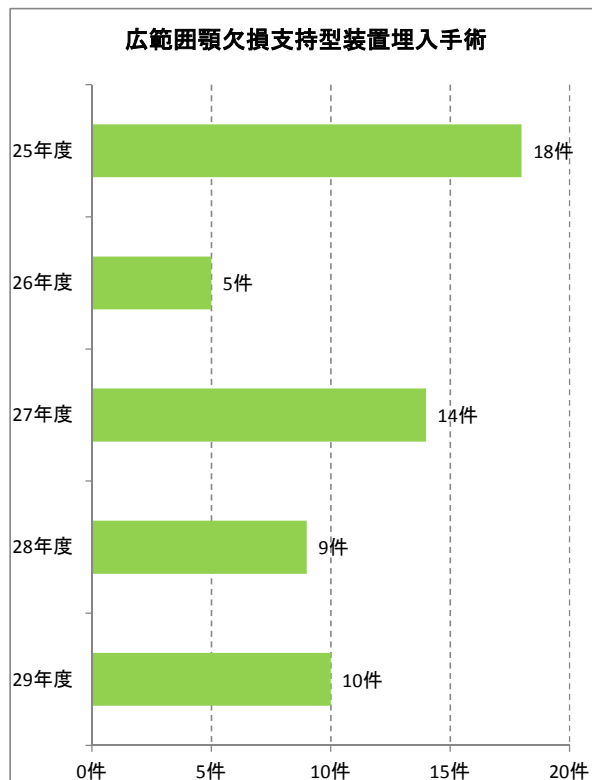
咀嚼機能の欠損は、機能性を失いQOLが低下します。インプラン埋入を行い、義歯や補綴を行うことで咬合再建手術を行います。

算式

手術件数

単位

件



顎口腔再建手術

▶ 項目の解説

病変や手術等で失った顎口腔領域の組織を遊離皮弁、有形皮弁を用いて再建する手術です。

▶ 定義

1年度あたりの全身麻酔下で行った手術件数です。

コメント

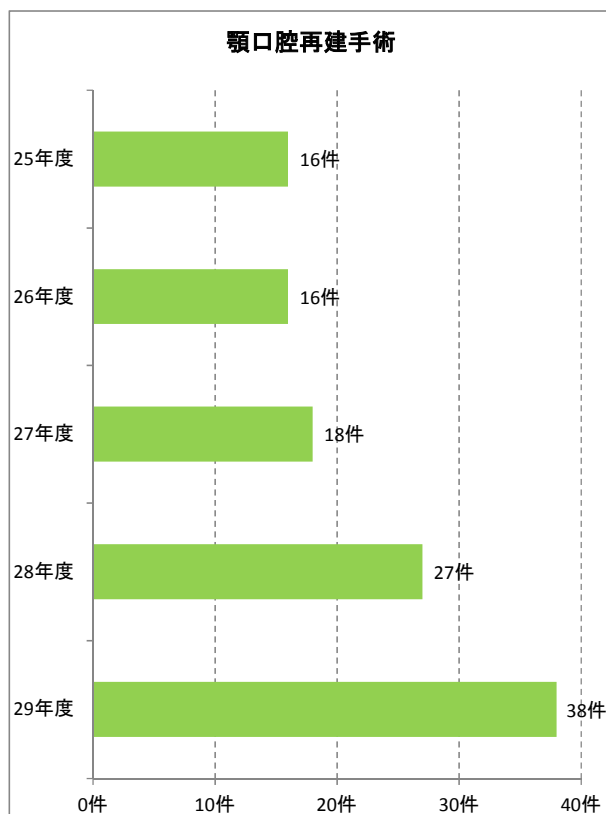
顎口腔領域の欠損は、審美性や機能性を失いQOLが低下します。審美障害、機能障害を最小限にとどめ日常生活に支障をきたさぬように再建手術を行います。

算式

手術件数

単位

件



顎骨骨折手術

▶ 項目の解説

顎骨骨折に対する観血的整復固定術(プレート固定)です。

▶ 定義

1年度あたりの全身麻酔下で行った手術件数です。

コメント

顎骨骨折は受傷から治療までの期間が短いほど治療成績は向上します。当科では原則、受診日に手術を施行しております。迅速な手術は予後を改善させ、早期退院、社会復帰を実現します。

算式

年間の延患者数

単位

件

